

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite
文書バージョン: 4.1 SP8 – 2016-06-09

新機能

目次

1	このドキュメントについて.....	6
2	SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1.	7
2.1	SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 へようこそ	7
2.2	SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP.	8
	Analysis 関数.	8
	プロンプト機能の拡張.	9
	SAP 統合.	10
	新規のデータソース.	11
2.3	BI プラットフォーム.	11
	インストール、アップグレード、およびデプロイメント.	11
	システム管理.	12
	BI ポータル.	14
2.4	Crystal Reports.	15
	合理化されたレポート作成 (新規および変更).	15
	データソース (新規および変更).	16
	モバイルとビューア (新規および変更).	16
	OEM および開発者 (新規).	17
2.5	ダッシュボード.	17
	モバイルサポート (新規および変更).	17
	オブジェクトブラウザとコンポーネントブラウザ (変更).	17
	Dashboards Component SDK (変更).	18
	アクセシビリティ (新規).	18
2.6	データアクセス.	18
	データソース (新規).	18
	シングルサインオン (新規および変更).	19
	SAP HANA 接続 (新規).	19
	SAP ERP 接続 (変更).	19
	使用停止接続タイプ (使用停止).	19
2.7	Desktop Intelligence.	20
	Business Intelligence 4.1 の新機能.	20
2.8	SAP BusinessObjects Explorer	20
2.9	インフォメーションデザインツール.	21
	データフェデレーションレイヤ (新規).	22
	SAP HANA へのユニバースの移行 (新規).	22

	インフォメーションデザインツールの新しいユーザ向けのヘルプ (新規)	22
	SAP HANA のリレーショナルユニバースに対する拡張 (新規および変更)	23
	SAP ERP のリレーショナルユニバースに対する拡張 (新規および変更)	23
	データファンデーション拡張 (新規および変更)	23
	ビジネスレイヤ拡張 (新規および変更)	24
	ローカルプロジェクトビュー拡張 (新規および変更)	25
	クエリストリップング (リレーショナルユニバースで新規)	25
	新しいデータソースへの接続および新しい接続パラメータ (新規および変更)	25
	OLAP 置換接続用のセキュリティプロファイル設定 (新規)	25
2.10	SAP BusinessObjects Mobile	26
	機能拡張	26
2.11	レポート変換ツール	27
	機能拡張	27
2.12	SAP BusinessObjects Web Intelligence	28
	Web Intelligence ドキュメントを分析するユーザ向けのユーザ文書の改善 (変更)	28
	カスタマイズ可能な Web Intelligence アプリケーションインタフェース (新規)	29
	テーブルヘッダ、列および行を固定可能 (新規)	29
	チャートのカスタムカラーパレットおよび色割り当て (新規)	29
	[使用できるオブジェクト] リストにおける拡張オブジェクト結合 (変更)	29
	結合階層をレポートで使用可能 (新規)	30
	クエリパネルのメンバーセレクトを使用した階層深度の定義 (新規)	30
	Web Intelligence のユーザビリティ拡張 (新規)	30
	自動最新表示をサーバおよびドキュメントレベルで使用可能 (新規)	30
	リレーショナルデータソースのクエリストリップングサポート (新規)	31
	Web Intelligence における右から左への配置 (新規)	31
	アーカイブファイルにおいて CSV 形式でドキュメントを保存可能 (新規)	32
	#UNAVAILABLE メッセージに関する動作の改善 (変更)	32
	拡張 Web Intelligence RESTful サービス SDK (変更)	32
	レポートヘッダおよびレポートフッタのプロパティの再編成 (変更)	33
	HANA のシングルサインオンのサポート (新規)	33
	拡張ユニバースサポート (変更)	33
3	SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP2	34
3.1	SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP2 へようこそ	34
3.2	SAP BusinessObjects ビジネスインテリジェンスプラットフォーム	34
3.3	Web Intelligence 拡張	35
4	SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP3	36
4.1	SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP3 へようこそ	36
4.2	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム SP3 での機能強化	36

4.3	SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP の機能強化.	37
4.4	SAP Crystal Reports の機能強化.	38
4.5	SAP BusinessObjects Web Intelligence の機能強化.	38
4.6	SDK の拡張.	40
5	SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP4.	42
5.1	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 SP4 へようこそ.	42
5.2	SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP の機能強化.	42
5.3	SAP BusinessObjects Web Intelligence の機能強化.	43
5.4	SDK の拡張.	44
5.5	データアクセス.	44
6	SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP5.	46
6.1	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 SP5 へようこそ.	46
6.2	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム.	46
6.3	SAP BusinessObjects Web Intelligence.	47
6.4	SAP BusinessObjects Web Intelligence および BI セマンティックレイヤ SDK.	48
6.5	SAP BusinessObjects Dashboards および Presentation Design.	50
6.6	SAP Crystal Reports for Enterprise.	50
6.7	データアクセス.	50
6.8	レポート変換ツール.	51
7	SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP6.	52
7.1	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 SP6 へようこそ.	52
7.2	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム.	52
7.3	SAP BusinessObjects Web Intelligence.	54
7.4	SAP BusinessObjects Web Intelligence および BI セマンティックレイヤ SDK.	58
7.5	SAP BusinessObjects Live Office.	59
7.6	SAP BusinessObjects Mobile.	60
7.7	SAP Crystal Reports for Enterprise.	60
7.8	SAP Crystal Reports (Designer).	60
7.9	データアクセス.	61
7.10	SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP.	61
7.11	Dashboards および Presentation Design.	62
7.12	インフォメーションデザインツール.	62
8	SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP7.	63
8.1	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 SP7 へようこそ.	63
8.2	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム.	63
8.3	SAP BusinessObjects Web Intelligence.	65
8.4	SAP BusinessObjects Mobile.	65

9	SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP8.	66
9.1	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 SP8 へようこそ.	66
9.2	SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム.	66
9.3	SAP BusinessObjects Web Intelligence および BI セマンティックレイヤ SDK.	67

1 このドキュメントについて

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 の新機能ガイドには、旧リリースから SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite に加えられた機能と改良点の概要が記載されています。新機能を使い始めるために利用できる製品のドキュメンテーションが記載されています。

2 SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1

2.1 SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 へようこそ

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite は、データを有用な情報に変換し、それを最も必要とする人々に配信するための補完ツールセットです。このスイートには、データのレポート作成、ドキュメントのスケジュールと配信、データの分析と閲覧、情報の表示と視覚化、これらすべてのタスクの管理、および独自のソリューションのカスタマイズを行うための各種のツールが含まれます。

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 では、以下の拡張が導入されます。

- システム設定ウィザード
システム設定ウィザードは、管理者による SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームの設定をサポートします。このウィザードにより、インストール後の一連の重要な設定ステップがガイドされ、システムを稼働させることがこれまでよりも容易になります。
- SAP Jam
SAP Jam は、顧客、パートナ、および従業員が、オフィス内でも、モバイルの使用中でも、情報、アプリケーション、およびソーシャルネットワーキングとアプリケーションのプロセスに接続できるようになる新しいコラボレーションツールです。
- SAP HANA ビジネスレイヤウィザード
[新しい SAP HANA ビジネスレイヤ] ウィザードでは、選択された SAP HANA Views に基づき、データファンデーションおよびビジネスレイヤが自動的に作成されます。
- Analysis, edition for OLAP と SAP BusinessObjects Design Studio の統合
Analysis で SAP BW または SAP HANA のデータに基づいてワークスペースを作成した後、そのワークスペースを Design Studio 分析アプリケーションとしてエクスポートし、モバイルユーザやデスクトップユーザが柔軟に利用できるようにすることができます。
- 右から左の表示に対するサポート
SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 の多くのコンポーネントでは、右から左に読むアラビア語などの言語に対するサポートを追加できるようになりました。

i 注記

右から左のサポートを有効化するには、アップデートインストールではなく、完全インストールを実行します。

- その他
詳細についてはこのガイドを参照してください。製品とアプリケーションはアルファベット順に一覧表示されています。

i 注記

- サポートされるプラットフォーム、データベース、Web アプリケーションサーバ、Web サーバ、およびこのリリースでサポートされるその他のシステムの一覧については、製品出荷マトリックス (サポートされるプラットフォーム/PAR) を参照してください。このドキュメントは、SAP サポートポータル [の SAP BusinessObjects のセクションにあります](https://service.sap.com/bosap-support) (<https://service.sap.com/bosap-support>)。

- 以前のリリースの機能については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com/bobi>) をご覧ください。

2.2 SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP

SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP が提供するパワフルな Web ベースの OLAP 分析ツールによって、ビジネスデータへの見識が深まり、企業の業績に影響するインテリジェントな決断が可能になります。

Analysis, edition for OLAP の新機能

- 新しい分析関数
- プロンプト機能の拡張
- SAP 統合の改善
- 追加データソースのサポート

2.2.1 Analysis 関数

2.2.1.1 カスタムグループ (新規)

カスタムグループを使用すると、同じディメンションに属する 1 つ以上の階層に含まれる複数のメンバーを結合して 1 つのグループにすることができます。グループの基準となっている既存の階層のメンバーとしてグループをクロスタブに追加するか、または独立した階層として表示することができます。同じデータソースへのアクセス権を持つ組織内の他のユーザと、カスタムグループを共有することもできます。カスタムグループは、Microsoft Analysis Services および Oracle Essbase のデータでのみサポートされます。

2.2.1.2 分析アプリケーションへのエクスポート

Analysis, edition for OLAP は、新しい SAP BusinessObjects Design Studio 製品と緊密に統合されています。Analysis で SAP BW または SAP HANA のデータに基づいてワークスペースを作成した後、そのワークスペースを Design Studio 分析アプリケーションとしてエクスポートし、モバイルユーザやデスクトップユーザが柔軟に利用できるようにすることができます。ユーザは、分析アプリケーションのバックグラウンドフィルタのメンバーの並べ替え、ドリル、変更を実行できます。

アプリケーション作成者は、必要に応じ、Design Studio でこれらの分析アプリケーションをさらにカスタマイズすることもできます。

2.2.1.3 ウォーターフォールチャート (新規)

単一行における一連のプラスおよびマイナスの変化を示すのに役立つウォーターフォールチャートを、Analysis で使用できるようになりました。

ウォーターフォールチャートは、ブリッジチャートとも呼ばれます。

2.2.1.4 新しいデータソースに拡張されたメジャーでのフィルタリング (変更)

メジャーでのフィルタリングを、SAP HANA を除く Analysis のすべてのタイプのデータソースに使用できるようになりました。この機能により、分析でデータ値に基づく動的なフィルタリングが可能になります。

2.2.1.5 SAP BW の拡張条件付き書式設定 (変更)

条件付き書式設定を表示し、個々のデータセル、行ヘッダ、または列ヘッダに適用できるようになりました。条件の基準となっているメジャー以外のメジャーで表示するための条件付き書式設定も定義できます。

2.2.1.6 レベルへの展開 (新規)

レベルへの展開関数を、クロスタブの階層に対して使用できるようになりました。この関数を使用して、特定のレベルまで階層全体を迅速にドリルできます。

2.2.1.7 Web Intelligence ドキュメントへのジャンプリnk (新規)

Web Intelligence レポートへのジャンプリnkを作成できるようになりました。ジャンプリnkを使用して、列ヘッダ、行ヘッダ、またはクロスタブセルから関連レポートを開くことができます。SAP 変数や行および列のメンバーテキストなどのパラメータをレポートに渡し、コンテキストデータが表示されるようにすることもできます。

2.2.2 プロンプト機能の拡張

2.2.2.1 [プロンプト] ダイアログボックス (新規および変更)

[プロンプト] ダイアログボックスが再設計され、すべての接続のプロンプトに対する同一ウィンドウ内でのアクセスが容易になりました。[プロンプト] ダイアログボックスから次の操作を行うことができます。

- 必須またはオプションのプロンプトを表示する。
- すべてのオプションプロンプトを展開する。
- 該当するすべてのクエリに同じ値が確実に適用されるよう、プロンプトを結合する。
- ワークスペースのデフォルトプロンプト値を指定する。

- SAP バリエントを使用して SAP BW 変数のプロンプト値を設定する。
- プロンプト値をワークスペースとともに保存する。ワークスペースを次に開くと、データソースのデフォルトプロンプト値に対して、[プロンプト] ダイアログボックスで指定した値が入力されます。

2.2.2.2 SAP バリエント (新規)

SAP バリエントは、SAP BW クエリプロンプトの値を保存したもののセットです。バリエントを使用して複数のプロンプトの値を同時に指定することで、時間を節約できます。Analysis, edition for OLAP でバリエントを作成するか、BEx アナライザまたは Analysis, edition for Office で作成された既存の SAP バリエントを使用することができます。

2.2.2.3 パラメータ化された OpenDocument URL (変更)

BI ラUNCHパッドにログインせずに Analysis ワークスペースを表示できる OpenDocument URL に、ワークスペースのプロンプト値を設定するパラメータを含めることができるようになりました。パラメータ化された OpenDocument URL を使用して、SAP 変数値の入力を求められることなく、Analysis ワークスペースを直接開くことができます。

2.2.3 SAP 統合

2.2.3.1 レポート間インタフェース (新規)

SAP BW データソースを使用する Analysis ワークスペースで、レポート間インタフェース (RRI) がサポートされるようになりました。クロスタブで使用される SAP BW データに対して RRI リンクが設定されている場合、クロスタブから RRI ターゲット (レポート、他の BEx クエリ、ABAP トランザクション、Web アドレスなど) にジャンプできます。クロスタブで右クリックしたメンバーがターゲットレポートに反映されるように、RRI ターゲットをコンテキスト依存にすることができます。

2.2.3.2 BEx 条件 (新規)

SAP BW データソースを使用する Analysis ワークスペースで、SAP NetWeaver Business Explorer (BEx) において定義された条件がサポートされるようになりました。クロスタブで使用される SAP BW データに対して BEx 条件が設定されている場合、条件を有効または無効にすることで、データをフィルタリングできます。条件は、デフォルトでは有効化されています。

2.2.3.3 デフォルト BW フィルタ (新規)

SAP BW データに基づく分析において、SAP NetWeaver Business Explorer (BEx) で定義された特性フィルタを表示および編集できるようになりました。

特性をデフォルト値に制限してフィルタを SAP NetWeaver Business Explorer (BEx) で定義し、その特性が SAP Business Explorer Query Designer の [自由特性] 領域に追加されると、特性は Analysis の [バックグラウンド] フィルタ領域に表示されます。

2.2.3.4 HANA シングルサインオン (新規)

Analysis, edition for OLAP で、ユーザを認証するための、SAML を使用した SAP HANA データソースへのシングルサインオン (SSO) 接続がサポートされるようになりました。

2.2.4 新規のデータソース

2.2.4.1 Essbase (新規)

Oracle Essbase データソースへの接続を作成できるようになりました。

2.3 BI プラットフォーム

2.3.1 インストール、アップグレード、およびデプロイメント

2.3.1.1 バンドルされた CMS データベース (変更)

Sybase SQL Anywhere が、CMS および監査データストアのバンドルされたデフォルトのデータベースサーバになりました。

バンドルされた IBM DB2 Workgroup Edition または Microsoft SQL Server Express データベースサーバを使用する 4.0 インストールを、アップグレードインストールプログラムを使用して 4.1 に更新する場合、データベースは保持され、引き続き使用されます。追加のアクションを実行せず、このバンドルされたデータベースサーバを引き続き使用できます。または、SAP BusinessObjects Suite 4.1 更新ガイドの「Sybase SQL Anywhere への移行」に記載されている手順に従って、既存のデータベースを Sybase SQL Anywhere に移行できます。

2.3.1.2 バンドルされた Tomcat アプリケーションサーバ (変更)

Tomcat 7.0 が、バンドルされたデフォルトの Web アプリケーションサーバになりました。

バンドルされた Tomcat 6.0 Web アプリケーションサーバを使用する 4.0 インストールを、アップグレードインストールプログラムを使用して 4.1 に更新すると、システムが自動的に Tomcat 7.0 に更新されます。

2.3.1.3 アップグレードマネジメントツール (変更)

- 本リリースでは、旧バージョンのデプロイメントからの移行後に、サードパーティーユーザおよびグループ (AD/LDAP) を再マップする必要がなくなりました。すべてのサードパーティーユーザおよびグループが、移行の終了時に適切にマップされます。
- 本リリースでは、必要なサービスの自動チェックが追加されました。ドキュメントタイプによって必要とされるサービスが実行されていない場合、管理者に通知されます (たとえば、Crystal Reports では Report Application Server が必要であり、Explorer では Explorer Master Server が必要)。
- 本リリースでは、既存のサーバトレースパラメータが `sap_log_level` および `sap_trace_level` によって置換されています。詳細については、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームアップグレードガイドの「アップグレードの計画」および「アップグレードの準備」の章を参照してください。

2.3.2 システム管理

2.3.2.1 システム設定ウィザード (新規)

システム設定ウィザードは、管理者による SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームの設定をサポートします。このウィザードにより、以下のようなインストール後の一連の重要な設定ステップがガイドされます。

- 使用される製品の選択
- パフォーマンスとリソース使用率のバランスの選択
- デプロイメントテンプレートの選択
- データフォルダの設定

2.3.2.2 サーバステータス (変更)

本リリースでは、エラーレポートが改善されました。万が一、サービスでエラーが発生した場合は、サーバステータスが [“エラー有りで開始”] に変更され、エラーが反映されます。また、すべてのサービスでエラーが発生した場合は、サーバステータスが [“エラー”] に変更されます。トラブルシューティングをサポートするため、セントラル管理コンソールのサーバプロパティのページではエラーの詳細が提供されます。

2.3.2.3 SAML を使用した SAP HANA へのシングルサインオン (新規)

SAP HANA データベース接続に対するシングルサインオン (SSO) を設定できます。SSO は、SAML (Security Assertion Markup Language) を使用して実装されます。BI プラットフォームセッションを確立した後、SAML チケットを生成できます。SAML チケットを使用することで、ユーザはパスワードを入力する必要なく SAP HANA にログインできます。

2.3.2.4 Web Intelligence のカスタマイズ (新規)

ユーザグループに基づき、Web Intelligence ユーザインタフェース要素の表示をカスタマイズできます。たとえば、ツールバー全体またはツールバーの特定の項目を、特定のユーザグループに対して非表示にできます。

2.3.2.5 マルチテナント管理ツール (変更)

マルチテナント管理ツールは、CMC およびプロパティファイル設定で作成されたテンプレートに基づくマルチテナント BI プラットフォームデプロイメントに対するテナントの作成に使用される、Java ベースのプロビジョニングアプリケーションです。

次のような新機能が追加されました。

- UNIX がサポートされる。
- テナント ID が監査レコードに記録される。
- `tenantConcurrentUserLimit` パラメータがプロパティファイルおよび CMC インタフェースに追加され、テナント別の最大ログイン数を設定できる。

詳細については、マルチテナント管理ツールガイドで「マルチテナント管理ツールの実行」>「テナントオンボーディング/プロビジョニング設定オプション」>「`tenantConcurrentUserLimit`」を参照してください。

CMC でのマルチテナント管理

追加されたテナントを、CMC から追加設定および管理できます。CMC ホーム画面の **[管理]** セクションで、**[マルチテナント]** が表示されます。

利用可能なテナント管理機能は、以下のとおりです。

- **プロパティ**
 - テナント名
 - 説明
 - キーワード
 - リソースの加重
 - 同時接続ユーザ
 - 読み取り専用値には、**[ID]**、**[CUID]**、**[作成日時]**、および **[前回変更日時]** が含まれます。
- **ユーザセキュリティの管理**
 - 主体の追加
 - テナントユーザグループに対する権限の設定
- **テナントにグループを追加**
- **ユーザグループの管理**
- **テナントの削除**
 - すべてまたは一部のオブジェクト削除

詳細については、マルチテナント管理ツールガイドの「“CMC におけるテナントの管理”」を参照してください。

2.3.2.6 プロモーションマネジメント (ライフサイクルマネジメントから変更)

- 本リリースでは、ライフサイクルマネジメントからプロモーションマネジメントに名前が変更されています。
- 本リリースでは、プロモーションマネジメントに対する WinAD サポートが追加されています。
- バージョン管理とプロモーションマネジメントでは、分析アプリケーション、Information Steward、Design Studio、Desktop Intelligence という新しいコンテンツタイプがサポートされるようになりました。

i 注記

SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイドの構造が改善され、これらの変更を反映して再編成されました。詳細については、「バージョン管理」、「プロモーションマネジメント」、および「差分の視覚化」の章を参照してください。

2.3.3 BI ポータル

2.3.3.1 SAP Jam によるコラボレーション (新規)

Business Intelligence (BI) プラットフォームで、SAP Jam アプリケーションが含まれるようコラボレーションが拡張されました。

SAP Jam により、顧客、パートナ、および従業員が、オフィス内でも、モバイルの使用中でも、情報、アプリケーション、およびソーシャルネットワーキングとアプリケーションのプロセスに接続できるようになります。コラボレーションをレポートングプロセス、販売プロセス、およびその他のプロセスに追加することで、セールスサイクルを短縮し、顧客と従業員のエンゲージメントを促進し、トレーニングコストを削減することができます。SAP Jam では、企業全体に広がる単一の安全なソーシャル基盤が提供され、すべてのコラボレーションサイロが接続されます。

SAP Jam によるコラボレーションを使用して、以下のタスクを実行できます。

- SAP Jam フィードの監視
- ドキュメントおよびインスタンスへのコメントの投稿、およびパブリックドキュメントに関して他の SAP Jam ユーザによって投稿されたコメントの表示

CMC 設定オプション

コラボレーション設定オプションは、BI プラットフォームにおけるセントラル管理コンソール (CMC) の **アプリケーション > コラボレーション** 領域に表示されます。[プロパティ] の [コラボレーション] ダイアログボックスには、以下が追加されています。

- [コラボレーションを有効にする] チェックボックス
- [SAP Jam] および [SAP StreamWork] ラジオボタン

詳細については、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 統合コラボレーションアプリケーションを参照してください。

BI ラウンチパッドのコラボレーション機能

CMC でコラボレーションアプリケーションを設定すると、SAP Jam のフィードが BI ラウンチパッドで使えるようになります。[\[ドキュメント\]](#) タブでは、コラボレーションに関連して以下のような変更が行われました。

- リストパネルに [\[コラボレーション\]](#) 列が含まれている。
- フィードパネルドロワの名前が [\[コラボレーション\]](#) に変更された。

SAP Jam の使用については、SAP BusinessObjects Business Intelligence ラウンチパッドユーザガイドを参照してください。

2.3.3.2 Integration Option for Microsoft SharePoint の文書 (変更)

Integration Option for Microsoft SharePoint software の文書が変更されました。

- ヘルプおよびスタートアップガイドが再編成され、追加の説明、指示、および画像によって更新されました。
- インストールガイドと設定ガイドが統合され、統合後のガイドが再編成および更新されました。新しいガイドには、拡張された説明、新しい指示、および新しい画像が含まれています。

2.4 Crystal Reports

SAP Crystal Reports 製品には、SAP Crystal Reports for Enterprise、SAP Crystal Reports 2013 Viewer、および SAP Crystal Reports 2013 が含まれています。

SAP Crystal Reports 製品の新機能:

- 合理化されたレポート作成
- データソースの改善
- モバイルおよびビューアサポート
- OEM および開発者機能

2.4.1 合理化されたレポート作成 (新規および変更)

SAP Crystal Reports for Enterprise の作成者が、レポートの作成と書式設定に要する時間の短縮にフォーカスしたより効率的なワークフローと機能を導入します。

- SQL 文コマンドオブジェクト - SQL をカスタマイズし、リレーショナルデータソースへのクエリを最適化する。
- データベースオプションの確認 - レポートクエリで、基盤となるデータソースの変更が反映されていることを確認する。
- モデリングおよびモデリング解除済みデータのレポート - サブレポートを使用し、リレーショナルデータベーステーブルからのオーサリング/モデリングおよびモデリング解除済みデータを含む複数のデータソースから、単一レポートデータへの結合を行う。

2.4.2 データソース (新規および変更)

BI 4.1 では、Crystal Reports for Enterprise からアクセスされる BEx クエリのパフォーマンスと信頼性が向上します。

- SAP BW では、以下のタスクを実行できるようになりました。
 - クエリパネルにおける変数値の保持と HTML ビューアでの使用
 - BW 階層ノード変数の相対的な奥行きに基づくメンバー選択の定義
 - BW 階層変数のレベルに基づくメンバー選択の定義
 - BW 変数の技術名とメンバーキャプションの切り替え
- SAP ECC では、オーサリングユニバースからのアクセス時に、デフォルト値なしの SAP ECC のオプションパラメータがサポートされるようになりました。

また、BI 4.1 では、SAP HANA のリレーショナルデータ構造と OLAP データ構造に基づくレポートの作成に対するサポートが拡張されました。これには、以下の拡張が含まれます。

- オーサリングリレーショナルユニバース
- 階層および変数を含む分析ビューおよび計算済みビューへの直接 OLAP アクセス
- JDBC および ODBC を介した直接アクセス
- SAML を使用したシングルサインオン
- JDBC SSL のサポート

オーサリングユニバースは、XML と Odata に対してサポートされています。

2.4.3 モバイルとビューア (新規および変更)

対話型の Crystal Reports が SAP BusinessObjects Mobile BI で使用できるようになりました。また、Mobile BI での OpenDoc サポートも提供されます。

HTML ビューアでは、以下の拡張を提供することで、右から左に読むロケールもサポートされるようになりました。

- 製品ロケールに基づく左右反対のインターフェース
- アラビア語の右から左に読むレポート
- 単一レポート内での両方向テキストサポート

その他のビューア拡張には、以下が含まれます。

- HTML ビューアにおける値の一覧のチャンキング
- BI ラウンチパッドにおけるデフォルトビューアクションの設定

2.4.4 OEM および開発者 (新規)

アプリケーション開発者が、非常に長い URL の OpenDoc API を使用できるようになりました。また、OpenDoc POST リクエストに対する OEM サポートも提供されます。

2.5 ダッシュボード

SAP BusinessObjects Dashboards は、対話型のダッシュボードを Excel スプレッドシートまたは BEx クエリなどのその他の外部データソースから作成およびエクスポートできるデータビジュアライゼーションソフトウェアです。これらのデータソースは、チャート、グラフ、ダイアルなどのダッシュボード上のさまざまなコンポーネントにリンクされます。これらのコンポーネントは、ダッシュボードユーザがデータをビジュアル化し、より十分な情報に基づくビジネス上の意思決定を行うのに役立ちます。

4.1 リリースの SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームでは、Dashboards に対する以下の変更が導入されました。

- モバイルデバイスにおけるダッシュボードの使用に関する拡張サポート
- [オブジェクトブラウザ](#)および[コンポーネントブラウザ](#)における機能の改善
- Dashboards Component SDK に対するモバイル固有改善
- アクセシビリティのサポート

2.5.1 モバイルサポート (新規および変更)

- ダッシュボードを、iOS または Android が稼働するモバイルデバイスで表示できるようになりました。

i 注記

画面が小さく、マウスオーバー機能がないため、モバイルデバイスでは特定のコンポーネントとダッシュボード機能はサポートされません。

- Dashboards ユーザインタフェースに、[\[モバイル互換\]](#) パネルが追加されました。ダッシュボードにモバイルでサポートされない機能またはコンポーネントが含まれている場合は、[\[モバイル互換\]](#) パネルに警告が表示されます。
- ダッシュボードを、モバイルオブジェクトとして SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームデプロイメントに保存できるようになりました。これらのオブジェクトはコンシューマのモバイルデバイスで表示でき、モバイルデバイスでサポートされないコンポーネントまたは機能は含みません。
- [\[モバイル \(画面に合わせる\)\]](#) と [\[モバイル \(元のサイズ\)\]](#) という 2 つの [\[プレビュー\]](#) モードが追加されました。

2.5.2 オブジェクトブラウザとコンポーネントブラウザ (変更)

- キャンバスのコンポーネントは、[オブジェクトブラウザ](#)でタイプまたは名前別に検索できます。
- [コンポーネントブラウザ](#)に表示されるコンポーネントをフィルタリングし、モバイルデバイスでサポートされるコンポーネントのみが表示されるようにすることができます。

2.5.3 Dashboards Component SDK (変更)

- Dashboards Component SDK により、開発者が HTML5 を使用するモバイルデバイスで使用する新しいコンポーネントおよび接続を作成できるようになりました。
- *Dashboards Component SDK* ガイドコレクションに、サンプルの HTML5 アドオンプロジェクトが追加されました。

2.5.4 アクセシビリティ (新規)

- 一部のコンポーネントは、キーボードを使用して移動できるようになりました。
- 一部のコンポーネントでは、テキスト音声化スクリーンリーダーなどの補助テクノロジーがサポートされるようになりました。

2.6 データアクセス

BI プラットフォームのデータアクセスレイヤでは、以下の変更が導入されています。

- [データソース \(新規\) \[18 ページ\]](#)
- [シングルサインオン \(新規および変更\) \[19 ページ\]](#)
- [SAP HANA 接続 \(新規\) \[19 ページ\]](#)
- [SAP ERP 接続 \(変更\) \[19 ページ\]](#)
- [使用停止接続タイプ \(使用停止\) \[19 ページ\]](#)

詳細については、データアクセスガイドを参照してください。

2.6.1 データソース (新規)

- BI プラットフォームを使用して、新しいデータソースへの接続を作成できます。詳細については、製品出荷マトリックスを参照してください。
- BI プラットフォームでは、以下のデータソースに接続するための新しいデータアクセスドライバが提供されます。
 - SAP NetWeaver Gateway によって提供される SAP システムに対するサービスを含む OData 2.0 データソース
 - XML ドキュメント
 - WSDL 1.1 を使用する Web サービス
- BI プラットフォームでは、UNIX で MS SQL Server 接続用の DataDirect ODBC 7.0 ドライバを使用できます。

2.6.2 シングルサインオン (新規および変更)

- 以下のデータベースに、シングルサインオン認証を使用して接続できるようになりました。
 - Teradata 13 および Teradata 14
 - Sybase IQ 15
- BI プラットフォームでは、Kerberos を使用する Windows AD、または SAML プロトコルを使用して、SAP HANA 1.0 データベースへの接続時にシングルサインオンが処理されます。

2.6.3 SAP HANA 接続 (新規)

- SAP HANA 1.0 データベースの新しい SPS 05 リリースへの接続を作成できます。
- SAP HANA データベースへの OLAP 接続を作成できます。
- SSL プロトコルを使用した SAP HANA データベースへの接続を作成できます。
- 64 ビット UNIX オペレーティングシステムでの ODBC を使用した SAP HANA データベースへの接続を作成できます。
- JDBC または ODBC を使用してストアードプロシージャを実行することで、SAP HANA データベースからデータを取得できます。

データアクセスガイド: ► [接続のリファレンス](#) ► [SAP HANA 接続](#) ► を参照してください。

2.6.4 SAP ERP 接続 (変更)

SAP ERP ドライバでは、ABAP 関数パラメータのオプション入力列への簡易マッピングが提供されます。

2.6.5 使用停止接続タイプ (使用停止)

以下のデータソースに対する既存の接続は機能しますが、新たな接続を作成することはできません。

- DB2 for z/OS v8、DB2 UDB v8、および DB2 v9.1
- GreenPlum 3
- MS Access 2003、MS Excel 2003、MS SQL Server 2005、および MS Analysis Services 2005
- Progress OpenEdge 10
- Sybase IQ 12.7、Sybase ASE 15、および Sybase SQL Anywhere 10

2.7 Desktop Intelligence

Desktop Intelligence はビジネスプロフェッショナル向けの、統合されたクエリ、レポーティング、および分析のソリューションであり、デスクトップから企業のデータベースに直接アクセスして、Desktop Intelligence ドキュメント内でこの情報を表示したり分析することができます。

Desktop Intelligence では、ユーザは SQL などの専門用語を使わずに使い慣れたビジネス用語を使用するため、このようなデータへのアクセスが容易に実現できます。Desktop Intelligence を使用してデータにアクセスしたら、その情報をテーブル形式やドリル可能なチャート付きの洗練された動的ドキュメントとしてレポートに含めることができます。

Desktop Intelligence では、さまざまなデータソースのデータにアクセスできます。次のデータソースを利用できます。

- ユニバース
- 個人用データ ファイル
- ストアドプロシージャ
- SQL 文サーバ
- XML データプロバイダ
- VBA データプロバイダ

2.7.1 Business Intelligence 4.1 の新機能

アップグレードマネジメントツール (UMT) を使用して、Desktop Intelligence ドキュメントを XI R2 and XI 3.1 から BI 4.1 に移行します。これにより、Desktop Intelligence Compatibility Pack (DCP) を使用して、現在 BI 4.1 プラットフォームにある Desktop Intelligence ドキュメントを表示できるようになります。DCP は XI 3.1 FixPack 6.1 およびそれ以降のバージョンで利用できます。

Desktop Intelligence Compatibility Pack を使用するための前提条件および DCP の使用方法の詳細については、Analytics Knowledge Center から利用できる Desktop Intelligence Compatibility Pack User Guide を参照してください。

2.8 SAP BusinessObjects Explorer

SAP BusinessObjects Explorer とは、ビジネス上の質問に対する回答を会社のデータから迅速かつ直接的に取得できるデータ発見アプリケーションです。情報スペースと呼ばれる整合性があり有効なデータセット内に保管されている関連のあるデータを見つけるため、強力な検索エンジンを使用します。データの容易な分析と理解に役立つ複数のチャートを含めることができる関連閲覧ビューで、データをビジュアル化できます。

.UNV データソースサポートの追加

SAP BusinessObjects Explorer において、.UNV 形式と .UNX (リレーショナルソースのみ) 形式の両方でユニバースにアクセスできるようになりました。

SSO サポートの追加

SAP BusinessObjects Explorer で、SAML シングルサインオン (SSO) と SSO Kerberos がサポートされるようになりました。

キーボードアクセシビリティの向上

SAP BusinessObjects Explorer で、情報スペースと閲覧ビューの両方に対するキーボードアクセシビリティが提供されるようになりました。キーボードアクセスは、すべてのユーザがいつでも使用でき、特別なインストールや設定は必要ありません。

オンラインヘルプの改善

オンラインヘルプが書き直され、情報スペースと閲覧ビューの作成と管理、情報スペースのパーソナライゼーション、インデックス化、データのビジュアル化、Explorer ユーザインタフェースの最大限の活用に関する情報と例へのアクセスが容易になるよう更新されました。

2.9 インフォメーションデザインツール

インフォメーションデザインツールは、SAP BusinessObjects のメタデータデザイン環境で、デザイナーが SAP BusinessObjects ユニバースを作成およびデプロイするために、リレーショナルおよび OLAP ソースからメタデータを抽出、定義、および編集できるようにします。

以下の節では、SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.1 で利用できるインフォメーションデザインツールの新しい機能および拡張機能について説明しています。

詳細については、インフォメーションデザインツールユーザガイドを参照してください。

関連情報

[データフェデレーションレイヤ \(新規\) \[22 ページ\]](#)

[SAP HANA へのユニバースの移行 \(新規\) \[22 ページ\]](#)

[インフォメーションデザインツールの新しいユーザ向けのヘルプ \(新規\) \[22 ページ\]](#)

[データファンデーション拡張 \(新規および変更\) \[23 ページ\]](#)

[SAP HANA のリレーショナルユニバースに対する拡張 \(新規および変更\) \[23 ページ\]](#)

[SAP ERP のリレーショナルユニバースに対する拡張 \(新規および変更\) \[23 ページ\]](#)

[ビジネスレイヤ拡張 \(新規および変更\) \[24 ページ\]](#)

[ローカルプロジェクトビュー拡張 \(新規および変更\) \[25 ページ\]](#)

クエリストリッピング (リレーショナルユニバースで新規) [25 ページ]

新しいデータソースへの接続および新しい接続パラメータ (新規および変更) [25 ページ]

OLAP 置換接続用のセキュリティプロファイル設定 (新規) [25 ページ]

2.9.1 データフェデレーションレイヤ (新規)

複数ソース有効データファンデーションのみで利用できるフェデレーションレイヤでは、データファンデーションで定義された任意のデータソース接続からのデータを含めることができる連合テーブルを作成できます。連合テーブルはデータファンデーションに挿入し、ユニバースが構築されるスキーマの定義に使用することができます。

データファンデーションエディタでは、新しいフェデレーションレイヤペインを使用し、データソーステーブルと連合テーブルを含むデータフローをグラフィカルに設計できます。

2.9.2 SAP HANA へのユニバースの移行 (新規)

ユニバースランドスケープの移行は、インフォメーションデザインツールのアドインです。これにより、インフォメーションデザインツールで作成したリレーショナルの単一ソースユニバースを、SAP HANA のデータベースに接続するユニバースに移行できます。以下の種類のリレーショナル接続に基づくユニバースを移行できます。Oracle、Teradata、Microsoft SQL Server、および Sybase Adaptive Server Enterprise。

ユニバースの依存レポート (Web Intelligence および Crystal Reports) も移行できます。ソースユニバースおよびレポートで定義されているセキュリティが、SAP HANA ユニバースおよび移行されたレポートに適用されます。

ユニバースランドスケープの移行アドインは、SAP Business Intelligence クライアントツールおよびインフォメーションデザインツールのインストール時に選択されます。詳細については、*Business Intelligence* プラットフォームインストールガイド (Windows 版)を参照してください。

2.9.3 インフォメーションデザインツールの新しいユーザ向けのヘルプ (新規)

インフォメーションデザインツールを初めて開くと、ツールを使用して作成できるリソースについて説明する、ようこそページが表示されます。ようこそページからは、すべてのリソース作成ウィザードにアクセスしたり、既存のリソースを開いたり、ヘルプおよびトレーニングマテリアルにリンクしたりすることができます。

OLAP ユニバースの作成をサポートするため、新しい役に立つヒントが用意されています。

新規ユニバースウィザードを使用して、ローカルユニバース (単一ソースリレーショナルユニバースまたは OLAP ユニバース) を公開するのに必要なリソースを作成できます。また、既存のリソースを選択することもできます。プロセスの各ステップで、リソースを作成するか、または既存リソースを選択するかを選ぶことができます。

2.9.4 SAP HANA のリレーショナルユニバースに対する拡張 (新規および変更)

SAP HANA のリレーショナルユニバースに対する基盤リソースの自動作成が拡張されました。これらの拡張を使用して、データファンデーションまたはビジネスレイヤを手動で更新することなく、より有用なユニバースを構築することができます。

- SAP HANA Views を含むデータファンデーションにおけるビジネスレイヤ作成のデフォルトプロセスでは、SAP HANA インフォメーションモデルで定義されたメタデータが考慮されます。[新しいビジネスレイヤ] ウィザードでは、ビジネスレイヤフォルダ内の各 SAP HANA ビューでディメンションおよび属性が自動的に作成され、適切な集計関数を含むメジャーが作成されます。
- SAP HANA インフォメーションモデルで定義された変数および入力列が、データファンデーションに含まれるようになりました。データファンデーションの最新表示時には、データソース内の新しい変数、削除された変数、および更新された変数が考慮されます。
- SAP HANA ビューに対応するテーブルをデータファンデーションに挿入する場合、SAP HANA インフォメーションモデルで非表示にされたメタデータに対応する列は、データファンデーションで非表示になります。
- [新しい SAP HANA ビジネスレイヤ] ウィザードでは、選択された SAP HANA Views に基づき、データファンデーションおよびビジネスレイヤが自動的に作成されます。データファンデーション内に複数の SAP HANA Views が存在する場合、異なるビューで共通するディメンションおよび属性は単一ビジネスレイヤオブジェクトとして作成され、複数のビューでのクエリを可能にするため、特殊なアグリゲート認識のオブジェクトが生成されます。

2.9.5 SAP ERP のリレーショナルユニバースに対する拡張 (新規および変更)

SAP ERP のリレーショナルユニバースに対する基盤リソースの自動作成が拡張されました。これらの拡張を使用して、データファンデーションまたはビジネスレイヤを手動で更新することなく、より有用なユニバースを構築することができます。

- 結合の自動検出は、単一ソースデータファンデーションに対してサポートされています。結合は、1 次キーと外部キーの関係に基づいて検出されます。
- ビジネスレイヤの作成時には、データファンデーションの列説明がビジネスレイヤのオブジェクト名に使用されます。列説明は、SAP ERP データベースのよりユーザフレンドリな名前です。参照のため、データファンデーションの列名がビジネスレイヤのオブジェクト説明になります。

2.9.6 データファンデーション拡張 (新規および変更)

より一貫性の高いデータファンデーションを構築するため、いくつかの拡張を利用できます。

- 新しいデータソースの機能をサポートするために、データファンデーションテーブルで列を非表示にできます。
- 列名のデフォルト区切りを上書きできるようになりました。列区切りをテーブルレベル (すべての列) および列レベルで管理できます。
- 入力列への値の割り当てが容易になりました。各入力列に対し、割り当てのタイプ (割り当てなし、値割り当て、パラメータ割り当て) を選択します。値割り当てについては、文字データ型の入力列に対して空白値を入力できます。
- データファンデーションの整合性をチェックするための新しいルールが追加されました。これらのルールにより、以下の問題が検出されます。

- 値が割り当てられていない必須の入力列
- 複数の値を受け入れるプロンプトが割り当てられた入力列
- 不適切なデータ型のパラメータが割り当てられた入力列
- データファンデーション内の未解決ループ

複数の拡張が、データファンデーションエディタの移動（データファンデーションにおけるオブジェクトの検索と接続におけるテーブルの検索）をサポートします。

- 接続ペインとデータファンデーションペインでは、フィルタにより表示が関連する SAP HANA Views のみに制限されます。
- データファンデーションへのテーブルの挿入時に、テーブルタイプまたは SAP HANA ビュー別のフィルタリングを実行できます。
- データベースで定義されたテーブルタイプが、接続ペインとテーブルプロパティの両方で、複数ソース有効データファンデーションに対して表示されるようになりました。
- 結合の編集時に、列名別のフィルタリングを実行できます。これは、多数の列を含むデータファンデーションテーブルの移動に役立ちます。
- データファンデーション接続パネルで、ワイルドカードを使用して検索できるようになりました。データベース固有のワイルドカードか、または "contains" スタイルの検索を使用してテーブルを検索できます。
- SAP HANA 分析ビューに対応するテーブルのテーブル値および列値の表示時に、インフォメーションデザインツールにより、SAP HANA インフォメーションモデルで定義された集計関数を使用して、メジャーを表す列の値が集計されるようになりました。

2.9.7 ビジネスレイヤ拡張（新規および変更）

複数のビジネスレイヤ拡張により、オブジェクト作成の迅速化がサポートされ、クエリおよびレポーティングアプリケーションでビジネスレイヤをより有効に利用できるようになります。

- リレーショナルビジネスレイヤでは、ディメンション属性をインデックス認識にできます。インデックス認識にすることで、データベースのキー列でインデックスを利用し、クエリパフォーマンスを改善することができます。
- OLAP ビジネスレイヤでメジャーの属性を定義できるようになりました。これは、メジャー "通貨" および "単位" に使用されます。
- ビジネスレイヤオブジェクトのカスタム表示書式は、インフォメーションデザインツール内で編集されるすべてのビジネスレイヤ間で共有できます。複数のビジネスオブジェクトの表示書式を同時に作成、編集または削除できます。
- パラメータや値の一覧などのオブジェクトのカスタム順序を作成できます。この順序は、ビジネスレイヤと、クエリパネルのユニバースのアウトラインに保存されます。
- メジャーまたはディメンションを属性に変換するコマンドと、ディメンションまたは属性をメジャーに変換するコマンドを使用して、複数のオブジェクトのビジネスオブジェクトタイプを容易に一括で変更できます。メジャーについては、選択した集計関数に従い、適切な見通し関数が自動的に設定されます。
- ディメンションおよび属性キーは、データファンデーションテーブル列からのドラッグアンドドロップによって作成できます。エントリボックスを有効化しなくても、キーを直接編集できます。
- ワンクリックの SELECT または WHERE の検証を使用できます。これにより、SQL または MDX アシスタントを開かなくても、ビジネスオブジェクトの式を検証できます。
- ビジネスレイヤでフィルタリングされたオブジェクトのセットを検索した後、ビジネスオブジェクトに対するすべてのアクションを検索パネルからも実行できるようになります。

2.9.8 ローカルプロジェクトビュー拡張 (新規および変更)

ローカルプロジェクトビューに対する複数の拡張を使用して、ローカルリソースの移動を行うことができます。

- ローカルプロジェクトビューで、リソースのフィルタリングと検索を行うことができるようになりました。
- 最近開かれたリソースのリストを、[ファイル] メニューとようこそページの両方で利用できます。
- 右クリックコマンドによって、リソースをより迅速に作成できるようになります。たとえば、リレーショナル接続を右クリックし、コンテキストメニューから **[新しいデータファンデーション]** を選択することができます。
- 接続および接続ショートカットを右クリックして、関連するエディタを開くことなく、接続をテストおよび編集することができます。
- インフォメーションデザインツールのリソースのファイルプロパティを表示できます。

2.9.9 クエリストリッピング (リレーショナルユニバースで新規)

クエリストリッピングを、OLAP ユニバースだけでなくリレーショナルユニバース (SAP HANA のユニバースを含む) で使用できるようになりました。

クエリストリッピングは、レポートに含まれるオブジェクトのみを取得するようにクエリを自動で書き直すことにより、パフォーマンスを最適化するために使用できるレポーティング機能です。この機能は、SAP BusinessObjects Web Intelligence のみで使用されます。

リレーショナルユニバースの場合、ビジネスレイヤでのクエリストリッピングを許可するオプションを有効化する必要があります。OLAP ユニバースの場合、クエリストリッピングはデフォルトで有効化されています。

2.9.10 新しいデータソースへの接続および新しい接続パラメータ (新規および変更)

OData、XML、および Web サービスデータソースへの接続を作成できるようになりました。これらの接続の詳細については、データアクセスガイドを参照してください。

SAP HANA の直接アクセス接続を作成できるようになりました。この接続はリポジトリに公開でき、SAP Crystal Reports for Enterprise から SAP HANA インフォメーションモデルへの直接アクセスを可能にします。

SAP HANA へのリレーショナル接続および直接アクセス接続をより容易に定義するため、新しい接続パラメータを使用できます。

SAP NetWeaver BW 接続用のカスタム ID プログラムマッピングおよびゲートウェイを定義できる新しいリレーショナル接続パラメータを使用できます。

2.9.11 OLAP 置換接続用のセキュリティプロファイル設定 (新規)

OLAP 接続およびリレーショナル接続に対する置換接続を定義できるようになりました。ビジネスセキュリティプロファイルの接続設定を使用して、ユニバースで定義されている OLAP 接続を上書きできる置換 OLAP 接続を定義します。

2.10 SAP BusinessObjects Mobile

2.10.1 機能拡張

この節では、SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.1 の Mobile サーバで導入された新しい機能について説明します。

2.10.1.1 サーバパッケージに MobileOTA14.war が含まれない (変更)

Mobile サーバパッケージに MobileOTA14.war ファイルが含まれなくなりました。この WAR ファイルには、SMP からアクセスできます。詳細については、<http://help.sap.com/bomobiserver41> に提供されている Mobile サーバの文書を参照してください。

2.10.1.2 サンプルの Mobile サーバドキュメントのサポート (新規)

サンプルの Mobile サーバドキュメントがサポートされるようになりました。

2.10.1.3 UNIX OS での Mobile サーバサポート (変更)

Mobile サーバファイルは、Windows および Linux オペレーティングシステムだけでなく、AIX および Solaris オペレーティングシステムでも自動でデプロイできます。

2.10.1.4 Mobile クライアント監査ファイルの表示 (変更)

監査ログファイルを使用して、Mobile クライアントアプリケーションによって実行されたアクティビティの具体的な内容を確認できます。

2.10.1.5 Mobile サーバログの専用フォルダ (変更)

このバージョンでは、Mobile サーバログが専用フォルダに保存されます。Mobile サーバエラーをデバッグするには、この Mobile サーバログフォルダにアクセスします。

2.10.1.6 Mobile 設定サーバのセキュリティポリシー機能 (新規)

サーバポリシーは、server.properties ファイルで設定できます。設定サーバで設定されたサーバポリシーは、この設定サーバを経由するあらゆる接続に接続されるクライアントに適用されます。

2.11 レポート変換ツール

レポート変換ツールは、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence XI R2 および XI 3.0 レポートを Web Intelligence 4.1 形式に変換し、変換したレポートを 4.1 CMS に公開します。

変換が完了したら、Web Intelligence ドキュメント (.wid) を元の Desktop Intelligence レポートと同じフォルダまたは異なるフォルダに公開できます。

一部の機能はレポートの変換を妨げることがあるため、レポート変換ツールでは Desktop Intelligence のすべての機能が変換されるとは限りません。変換のレベルは、元のレポートの機能によって変わります。一部の機能は、変換中に変更、再実装、または削除される場合があります。

このツールでは、各レポートに対して、次に示す 3 つのステータスのいずれかを割り当てます。

- 完全に変換
- 一部のみ変換
- 未変換

レポート変換ツールは、レポート変換ツールで完全に変換できないレポートを識別し、その理由を説明することで、変換済みレポートの監査をサポートします。

BI 4.1 では、レポート変換ツールと BI プラットフォームに対していくつかの機能的拡張が行われました。これらの機能的拡張については、以下の節で説明します。

2.11.1 機能拡張

この節では、SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.1 のレポート変換ツールで導入された新しい機能について説明します。

2.11.1.1 ドキュメントインスタンスの変換機能 (新規)

レポート変換ツールで、Desktop Intelligence ドキュメントを Web Intelligence ドキュメントに変換するだけでなく、Desktop Intelligence ドキュメントのインスタンスを Web Intelligence 形式に変換できるようになりました。

Desktop Intelligence レポートインスタンスを Web Intelligence インスタンスに変換する方法については、SAP Help Portal (http://help.sap.com/boall_en) で提供されているレポート変換ツールガイドの「Desktop Intelligence レポートインスタンスの Web Intelligence インスタンスへの変換」に関する章を参照してください。

2.11.1.2 ターゲット 4.1 プラットフォームにおけるソース (Desktop Intelligence) ドキュメントのホスト (新規)

XI 3.1 および XI R2 Desktop Intelligence (.rep) ソースレポートを、SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.1 でホストできるようになりました。BI 4.1 のレポート変換ツールでは、4.1 CMS をソースとして使用でき、変換後のレポート (.wid) をターゲットと同じ 4.1 CMS に公開できます。

以下は、ソース CMS システムとターゲット CMS システムの拡張バージョンサポートマトリクスです。

ソース CMS バージョン	ターゲット CMS バージョン (.wid ドキュメントの公開用)
XI R2	BI 4.1
XI 3.0 または XI 3.1	BI 4.1
BI 4.1	BI 4.1

i 注記

1. ソース CMS が BI 4.1 システムである場合、同じ 4.1 CMS をターゲットにする必要もあります。ターゲット 4.1 CMS が別のマシンである場合、変換は機能しません。
2. 4.0 CMS システムを変換のソース CMS にすることはできません。

2.12 SAP BusinessObjects Web Intelligence

SAP BusinessObjects Web Intelligence は、リレーショナルデータソースおよび OLAP データソースからレポートを作成し、フィルタ、条件付き書式設定、データ追跡などの機能を使用してデータを分析するために使用される、クエリ、レポーティングおよび分析ツールです。この節には、本リリースで行われた改善が記載されています。

2.12.1 Web Intelligence ドキュメントを分析するユーザ向けのユーザ文書の改善 (変更)

ユーザフレンドリな文書ナビゲーション

これまで、Web Intelligence のユーザガイドには、さまざまなユーザプロファイルのニーズに関係のない章が多数含まれていました。以下のユーザニーズを反映して文書が整理されました。

- クエリ作成者向けのクエリに関する章
- レポート作成者向けのレポート作成に関する章
- レポート作成者向けのレポートの作成、設定、および共有に関する章
- レポートを分析するユーザ向けのドキュメントのデータ分析に関する章

Web Intelligence レポートを分析するユーザ向けの文書

Web Intelligence ユーザガイドの *Web Intelligence* レポートのデータ分析に関する節には、Web Intelligence の [読み取り] モードで利用できる機能について記載されています。

2.12.2 カスタマイズ可能な Web Intelligence アプリケーションインターフェース (新規)

CMC では、BI 管理者が、特定のユーザグループに対する Web Intelligence の表示方法を変更できます。BI 管理者は、ツールバーや、ツールバー内のアイテムなどのインターフェース要素をカスタマイズし、特定のドキュメントモードへのアクセスをカスタマイズすることができます。ユーザグループの [プロパティ] パネルでは、[カスタマイズ] パネルを使用できます。

2.12.3 テーブルヘッダ、列および行を固定可能 (新規)

Web Intelligence レポートを [クイック表示] モードで表示した場合に、テーブルのヘッダ、行、列を固定して常に表示させながら、データをスクロールできます。テーブルのタイプに応じて、テーブルの 1 つ以上のゾーンを固定できます。メインツールバーに、新しい [固定] ボタンが表示されます。

2.12.4 チャートのカスタムカラーパレットおよび色割り当て (新規)

カスタマイズされたカラーパレットを使用し、ディメンションオブジェクトに対する色を定義して、Web Intelligence レポートにおけるチャートの表示をパーソナライズできます。[デフォルト色として設定] オプションを使用して、ドキュメント内のすべてのチャートで、1 つ以上のディメンションオブジェクトに対してこの色割り当てを設定できます。

[デフォルト色として設定] オプションを使用して、パレットによって生成されたチャートの凡例アイテムへの自動色割り当てを、ドキュメント内のチャートのすべてのインスタンスに対して設定できます。デフォルト色は、ドキュメントに起動時の最新表示、ドリル、またはフィルタリングを適用しても変更されません。

2.12.5 [使用できるオブジェクト] リストにおける拡張オブジェクト結合 (変更)

サイドパネルの [使用できるオブジェクト] リストで、結合オブジェクトのグループにおける追加オブジェクトの追加および削除を行うことができます。

2.12.6 結合階層をレポートで使用可能 (新規)

レポートで結合階層を使用できるようになりました。同じ階層内のオブジェクトが結合されると、結合オブジェクトによって階層が複製されます。フラットディメンションを使用して結合された階層では、階層が結合オブジェクトとして提供されます。

異なる結合階層に異なる親を持つメンバーは、結合オブジェクトで子孫とともにそれぞれ異なる親に対して複製されます。

2.12.7 クエリパネルのメンバーセレクトを使用した階層深度の定義 (新規)

デフォルト階層におけるレベルベースのメンバー選択を、BEx 階層ノード変数に対して定義できるようになりました。階層は、変数マネージャで設定する必要があります。階層を変数マネージャで設定しない場合、レベルを使用できません。

選択した階層のレベルのみが表示されます。すべての階層の最大レベル数を結合または設定することはできません。

i 注記

レベルはルートから開始する必要があります。

i 注記

レベルをスキップすることはできません。

2.12.8 Web Intelligence のユーザビリティ拡張 (新規)

Web Intelligence のユーザビリティが、以下のように拡張されました。

- Web Intelligence HTML インタフェースの **[読み取り]** モードで、テーブルの折りたたみと展開を実行できます。
- **[式エディタ]** でオブジェクト値セレクトを使用できるようになりました。値の一覧を含むオブジェクトが含まれる式の編集時に、**[使用できるオブジェクト]** ペインで値をダブルクリックして、利用可能な値を表示できます。これにより、**[値の一覧]** セレクトが表示されます。**[式エディタ]** で使用する値を選択します。
- サイドパネルの上にあるツールバーに、**[クエリパネル]** へのアクセスを容易にする **[データプロバイダの編集]** ボタンが表示されるようになりました。
- **[クエリパネル]** では、すべての既存クエリを最新表示することなく、新たに追加されたクエリを実行できるようになりました。

2.12.9 自動最新表示をサーバおよびドキュメントレベルで使用可能 (新規)

ドキュメントプロパティで **[自動最新表示]** オプションを有効化すると、ドキュメントが自動で最新表示されます。

[自動最新表示] オプションは、依頼メジャーを使用する場合に適用されます。このオプションが選択されている場合、クエリでオブジェクトが追加または削除されるか、または [レポートフィルタ] バーでリストから異なる値が選択されると、ドキュメントが自動的に最新表示されます。

2.12.10 リレーショナルデータソースのクエリストリッピングサポート (新規)

クエリストリッピングは、パフォーマンスを最適化するレポートング機能です。クエリストリッピングは、Web Intelligence のみで使用されます。

リレーショナルユニバースでは、BI 管理者が以下のパラメータを有効化する必要があります。

- インフォメーションデザインツールのビジネスレイアウトプロパティで [クエリストリッピングを許可] オプションが選択されている (デフォルトでは選択解除されている)。
- Web Intelligence のドキュメントプロパティで [クエリストリッピングを有効にする] オプションが選択されている (デフォルトで選択されている)。
- Web Intelligence のクエリプロパティでデータプロバイダに対して [クエリストリッピングを有効にする] オプションが選択されている (デフォルトで選択されている)。

2.12.11 Web Intelligence における右から左への配置 (新規)

Web Intelligence アプレットインタフェースと Web Intelligence リッチクライアントでは、特定の言語ロケールを選択すると、アプリケーションインタフェースとドキュメントデータの配置は右から左 (RTL) になります。

製品ロケールと右から左へのインタフェースの配置

[製品ロケール] にアラビア語を選択した場合、Web Intelligence アプリケーションインタフェースの要素は、実際に左から右 (LTR) への配置を鏡に映したように、常に右から左 (RTL) に配置されます。たとえば、RTL ロケールではサイドパネルが右にありますが、LTR ロケールではサイドパネルが左にあります。

優先表示ロケールと右から左への配置

[優先表示ロケール] にアラビア語、ヘブライ語、ファルシ語、ウルドゥー語、またはディベヒ語を選択した場合は、そのロケールで作成されたドキュメントの要素とデータは、右から左 (RTL) に配置されます。たとえば、クロステーブルで、LTR ロケールの場合にサイドヘッダ列は左側に表示されます。RTL ロケールの場合、サイドヘッダ列は右側に表示されます。

2.12.12 アーカイブファイルにおいて CSV 形式でドキュメントを保存可能 (新規)

Web Intelligence リッチクライアントや Web Intelligence アプレットインタフェースで、ドキュメントデータを CSV アーカイブ形式として保存できます。この形式では、レポートごとに 1 つの CSV ファイルを含むアーカイブファイル (.zip) が生成されます。各 CSV ファイルには、ヘッダ、フッタ、またはチャートのないレポートデータが含まれます。レポートのすべてまたは一部を CSV アーカイブファイルに含めることができます。

2.12.13 #UNAVAILABLE メッセージに関する動作の改善 (変更)

#UNAVAILABLE メッセージが表示される状況が減りました。スマートメジャー (データベースの依頼されたメジャー) が式であるディメンションのコンテキストで使用される場合、必要な値が返されます。これまでは、#UNAVAILABLE エラーメッセージが返されていました。

2.12.14 拡張 Web Intelligence RESTful サービス SDK (変更)

Web Intelligence RESTful サービス SDK を、以下から使用できるようになりました。

- 任意の言語 (Java、.Net など)
- 任意のコンピュータまたはモバイルデバイス

RESTful サービス SDK の機能が、以下の領域で強化されました。

- ドキュメントの管理 (拡張)
以下を行うことができます。
 - 空のドキュメントの作成
 - ドキュメントにおけるレポートの追加とそのレポート指定の設定
 - ドキュメントからのデータの削除
 - アラータの取得/作成/削除/更新
 - スタイルの取得/作成/削除/更新
 - スキン (背景画像) の取得/作成/削除/更新
 - 変数式の取得/作成/削除/更新
 - ドリルの管理およびドリルスナップショットの作成
 - ドキュメントからのカスタム書式番号の取得
 - フォントマッピング、CSS スタイル、書式番号、デフォルトスキン、サポートされる演算子の取得
- ドキュメントライフサイクルの管理 (拡張)
以下を行うことができます。
 - データ変更の追跡の取得/作成/削除/更新
 - 保存トークン (スナップショット) によるドキュメントステータスの管理
- レポートの管理 (拡張)
以下を行うことができます。

- レポート要素 (.xls(x)、.pdf、.xml、.html) へのアクセスとそれらのエクスポート
- プロンプトワークフローにおける値の一覧管理 (階層を含む)
- SAP 変数に対するプロンプトの管理 (オプション/必須、キー日付を含む)
- ネストされたプロンプトのサポート
- データプロバイダの管理 (拡張)
以下を行うことができます。
 - ユニバースのクエリによって生成されるクエリステートメントの取得 (SQL または MDX)
 - データソースクエリ機能の取得
 - データプロバイダソースワークフローの変更: UNV > UNV、UNV > UNX、UNV OLAP BW > BEX、UNX > UNX
- BW 接続および BEx クエリの管理 (新規)
以下を行うことができます。
 - BEx 接続および BW BEx クエリのリストの参照
 - BEx クエリの詳細の取得
- ドキュメントのスケジュールおよび最新表示 (拡張)
日付および日時 (スケジュール) を使用して、ドキュメントを最新表示できます。
- ユニバースの管理 (拡張)
ユニバースに関する拡張詳細情報を取得できます。

2.12.15 レポートヘッダおよびレポートフッタのプロパティの再編成 (変更)

罫線プロパティ設定を含む、レポートヘッダ/フッタ設定の新しい専用プロパティパネルがあります。

2.12.16 HANA のシングルサインオンのサポート (新規)

シングルサインオンを使用して、HANA データソースに接続できるようになりました。

2.12.17 拡張ユニバースサポート (変更)

- デフォルト値がない ERP オプションパラメータがサポートされるようになりました。ERP パラメータを、オプションプロンプトとして Web Intelligence レポート内で使用できます。
- OLAP UNX ユニバースの接続に対し、ビジネスセキュリティプロファイルによって過剰な負荷が発生する場合があります。この種類のユニバースで作成された Web Intelligence レポートでは、このセキュリティ要件が考慮されます。

3 SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP2

3.1 SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP2 へようこそ

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite は、データを有用な情報に変換し、それを最も必要とする人々に配信するための包括的なツールセットです。このスイートには、データのレポート作成、ドキュメントのスケジュールと配信、データの分析と閲覧、情報の表示と視覚化、これらすべてのタスクの管理、および独自のソリューションのカスタマイズを行うための各種のツールが含まれます。

サポートされるプラットフォーム、データベース、Web アプリケーションサーバ、Web サーバ、およびこのリリースでサポートされるその他のシステムの一覧については、Product Availability Matrix (サポートされるプラットフォーム/PAR) を参照してください。このドキュメントは、SAP サポートポータル [の SAP BusinessObjects のセクション \(https://service.sap.com/bosapsupport\)](https://service.sap.com/bosapsupport) にあります。

旧リリースの機能については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com/bobi>) を参照してください。

3.2 SAP BusinessObjects ビジネスインテリジェンスプラットフォーム

RESTful SDK の機能強化

SAP BusinessObjects BI Semantic Layer RESTful Web サービス SDK が SAP BusinessObjects BI プラットフォームの一部として提供されるようになりました。これにより、クライアントツールで、ユニバースメタデータを参照できるほか、クエリを送信したり実行したりすることができます。OData プロトコルを使用して、XML または JSON 形式でクエリ結果を取得できます。

次の機能がサポートされています。

- ユニバース一覧、ユニバースメタデータ、ビジネスビュー、クエリ機能、ユニバースのリンクグループの取得
- クエリの作成、クエリ詳細の取得、クエリリストの取得、クエリの削除
- OData フローメタデータの取得、OData フローコンテンツ (クエリ結果) の取得

SAP BusinessObjects BI Semantic Layer Java SDK の機能強化

- データファンデーションの構造を最新表示できます。
- 複数ソースのユニバースでは、以下を行うことができます。

- 複数ソース有効データファンデーションの作成
- 複数ソース有効データファンデーションへのデータソースの追加
- 複数ソース有効データファンデーションにおけるデータベース固有の派生テーブルの作成
- データファンデーションで、コンテキスト、1 次キー、およびリレーショナルネイティブフィルタを作成できます。
- ビジネスレイヤアイテムの暗黙のテーブルを取得できます。
- 列プロパティを取得および設定できます。
- ビジネスレイヤおよびビジネスレイヤアイテムで、カスタムプロパティを作成できます。
- ビジネスレイヤビューを作成できます。
- **テーブル**設定を使用して、データセキュリティプロファイルを作成できます。
- **クエリの作成**または**データの表示**設定を使用して、ビジネスセキュリティプロファイルを作成できます。

3.3 Web Intelligence 拡張

- Web Intelligence レポートのテーブルで、ディメンションの値を集計グループに収集できます。この集計グループの変数オブジェクトは、サイドパネルの [使用できるオブジェクト] タブで作成され、グループ設定を管理できます。
- 新しいオプション**実行時にクエリの定義済みデフォルト値を使用**が、クエリパネルの BEx 変数マネージャに追加されました。このオプションにより、ユーザは、初回実行時またはプロンプト消去アクション後の最新表示時に、変数から作成されたプロンプトのデフォルト値を管理する方法を選択できます。このオプションが有効化されると、Web Intelligence で、基盤となる BEx クエリにおいて定義されたデフォルト値が使用されます。このオプションが無効化されると、Web Intelligence で、変数マネージャにおいて定義されたデフォルト値が使用されます。
- 式エディタでプロンプトリストを取得できるようになりました。
- 標準のアクショングループツールバーの数値アイコンが拡張され、パーセンテージ、通貨、および小数の書式にアクセスしやすくなりました。
- レポートの動的な背景画像を作成し、形式ダイアログボックスの複雑な式による制御を使用して、その形式、外観および位置を操作することができます。この操作は、レポートヘッダ、フッタ、セクション、テーブル、およびテーブルの一部のセルにも適用できます。
- レポートに独立セルを挿入するときに、事前定義済みセルを選択できます。事前定義済みセルのリストが、クエリプロンプトの事前定義済みセルによって拡張されました。クエリプロンプトに基づいて事前定義されたセルには、前回の最新表示時または**クエリの実行**アクションにおけるユーザプロンプトの選択内容が表示されます。事前定義済みのプロンプトリストに一覧表示された各クエリプロンプトに対して、事前定義済みのセルが存在します。
- ウォーターフォールチャートで、初期値、合計、小計、プラス/マイナスの変動に対して特定の色を割り当てることができます。
- クエリパネルの**結果オブジェクト**ペインには、説明を含む固有のダイアログボックスがあり、Web Intelligence リッチクライアントおよび Web Intelligence アプレットインターフェースで、**Control** + **C** キーを押してテキストをクリップボードにコピーすることができます。この内容は、他のアプリケーションに貼り付けることができます。

4 SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP3

4.1 SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP3 へようこそ

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite は、データを有用な情報に変換し、それを最も必要とする人々に配信するための包括的なツールセットです。このスイートには、以下を行うための各種のツールが含まれます。

- データのレポート作成
- ドキュメントのスケジュールと配信
- データの分析と閲覧
- 情報の表示と視覚化
- これらすべてのタスクの管理
- 独自のソリューションのカスタマイズ

サポートされるプラットフォーム、データベース、Web アプリケーションサーバ、Web サーバ、およびこのリリースでサポートされるその他のシステムの一覧については、Product Availability Matrix (サポートされるプラットフォーム/PAR) を参照してください。このドキュメントは、[SAP Support Portal](#) の SAP BusinessObjects のセクションにあります。

旧リリースの機能については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com/bobi>) を参照してください。

4.2 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム SP3 での機能強化

セッション管理

セントラル管理コンソール (CMC) で、ユーザセッションを表示および終了できます。たとえば、複数のセッションを使用中のユーザを確認することができます。管理者は、古いセッションやシステムリソースの使用量が多すぎるセッションを終了することができます。また、システムのダウンタイムやアップグレードの準備をする際に、セッションを終了する必要が生じることもあります。

フォルダリンクへの直接接続

すべてのフォルダの右クリックメニューを利用することにより、フォルダリンクを取得して、他のユーザと共有することができます。このリンクは、OpenDocument リンクと同様に、BI ランチパッドの特定のフォルダに直接アクセスするものです。

derby データベースのプロモーションマネジメントの削除

プロモーションマネジメントの上書きは、CMS データベースに保存されるようになりました。これにより、このサービスではクラスタリングやフェイルオーバーなどの機能拡張が今後可能になります。

プロモーションマネジメントでの複数サーバのサポート

プロモーションマネジメントサービスに、複数の Processing Job Server に対するサポートが追加されました。

プロモーションマネジメントのマニュアル

プロモーションマネジメントツールを使用したりポジトリの完全移行のベストプラクティスが追加され、ユーザマニュアルが更新されました。

バージョン管理サーバ

管理者は、SubVersion と ClearCase でクラスタ化された Processing Job Server を設定するための新しいオプションを利用できるようになりました。

マルチテナントツールでのユニバースのサポート

セマンティックレイヤのサポートが強化された SDK を利用することにより、マルチテナントツールで複数ソースユニバースをサポートできるようになりました。

4.3 SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP の機能強化

XLSX へのエクスポート

Analysis ワークスペースが XLSX ファイル (Microsoft Excel 2007 以降) としてエクスポートできるようになりました。


4.4 SAP Crystal Reports の機能強化

プロンプトの並べ替え

SAP Crystal Reports for Enterprise では、データソースのプロンプト (BEx クエリのプロンプトなど) の順番をカスタマイズできます。また、データソースで使用されているデフォルトのプロンプトの順番に復元することもできます。

4.5 SAP BusinessObjects Web Intelligence の機能強化

式自動書き換えソリューション

XI 3.x バージョンからドキュメントを移行する際、式自動書き換えソリューションを使用して、ドキュメントの式が自動的に書き換えられるようになりました。これにより、特定の式においては、古いバージョンのドキュメントに対応する結果を受け取ります。詳細については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-39973>  にあるホワイトペーパーを参照してください。

Web Intelligence での SAP HANA クエリプロンプト

Web Intelligence では、SAP HANA ユニバースは他の UNX リレーショナルユニバースのように動作します。SAP HANA インフォメーションモデルの HANA 変数および入力パラメータは、データファンデーションの対応するテーブルに関連付けられます。

クエリパネルで HANA 変数および入力パラメータが含まれるクエリを実行するか、ドキュメントが最新表示されると、これらの変数およびパラメータの値を指定する必要があることを示すプロンプトが表示されます。プロンプトで使用可能な値は、HANA ソースから直接取得されます。

SAP HANA ユニバースでの順位付け

SAP HANA ユニバースで、データの順位を設定できるようになりました。ユニバースレベル順位付けのあるオブジェクトに基づくクエリでは、データの取得にかかる時間が短縮されます。

入力コントロールですべての値の選択を許可

入力コントロールの**コントロールタイプの選択**ダイアログボックスで、**すべての値の選択を許可**プロパティを使用すると、レポート作成者が、その入力コントロールでの**すべての値**オプションの表示/非表示を切り替えられます。これにより、レポート作成者は、レポート内で値を簡単に選択できます。

レポートの複製によるレポートの入力コントロールの複製

Web Intelligence ドキュメントでレポートを複製すると、元のレポートの入力コントロールが新しいレポートに複製されます。

Excel データソースに基づくクエリの最新表示が可能

Web Intelligence リッチクライアントおよびアプレットのインターフェースの横の**クエリプロパティ**ペインで、作成者は Excel データソースに基づくクエリの最新表示オプションを有効にすることができます。

Web Intelligence の改善されたチャート機能

- 折れ線チャートでは、線の太さを調整できます。
- ウォーターフォールチャートで、参照行を有効または無効にできるほか、ウォーターフォールチャートのプロットエリア内のオブジェクト間のスペースを設定できます。
- チャートの幅より長くても、チャートの長いタイトルを表示できます。
- Web Intelligence ユーザガイドでは、**ツリーマップ**、**ヒートマップ**、および**タグクラウド**チャートの色に基づくデータ間隔と、**カスタム範囲のカラーリング**、**グラデーションベースのパレットカラーリング**、**メジャー極性を使用したグラデーションベースのパレットカラーリング**、および**パレットカラーリング**メソッドの情報についても説明しています。

右から左に読む (RTL) 言語による Web Intelligence のインターフェースおよびドキュメントのロケールへの影響

- Web Intelligence アプレットインターフェースと Web Intelligence リッチクライアントでは、製品ロケールにアラビア語またはヘブライ語を選択すると、アプリケーションインターフェースの配置が右から左 (RTL) になります。たとえば、RTL ロケールでのサイドパネルは右にあります。LTR ロケールでのサイドパネルは左にあります。

i 注記

Web Intelligence HTML インタフェースでは、RTL 配置を使用できません。

- BI 管理者の選択したシステム設定によっては、ドキュメントコンテンツの配置が RTL になる場合があります。サポートパッケージ 3 では、ドキュメントのコンテンツの配置は、CMC Web Intelligence のシステム設定で BI 管理者によって指定されるため、個々のユーザが変更することはできません。

Web Intelligence のインタフェース間の違いに関するドキュメント

Web Intelligence ユーザマニュアルでは、BI 4.1 サポートパッケージ 03 以降すべての Web Intelligence インタフェース間に存在する主な機能の違いに関する概要を提供しています。

Sharepoint での Web Intelligence の機能強化

- 手動またはウィザードを使用した方法のいずれかにより、サイトに Web Intelligence Web サービスをデプロイできるようになりました。
- BI 管理者が SSL を有効化している場合は、Web Intelligence Web サービスの設定ファイルを更新して、一部の設定 (バインド、サービスの動作、およびエンドポイント) を HTTP から HTTPS 設定に切り替える必要があります。

Web Intelligence アプレットインタフェースのロードパフォーマンス

Web Intelligence アプレットインタフェースを構成する .jar ファイルの数が大幅に削減されたため、Web Intelligence アプレットインタフェースのロードが速くなりました。

4.6 SDK の拡張

SAP BusinessObjects BI Semantic Layer

- 「RESTful Web サービス SDK」
 - .unix ユニバースのコンテキストおよびパラメータを取得できます。
 - コンテキストおよびパラメータに応答できます。
- 「Java SDK」
 - データファンデーションおよびビジネスレイヤのパラメータオブジェクト、カスタムプロパティ、値の一覧を作成できます。
 - 値の一覧をビジネスオブジェクトまたはパラメータオブジェクトに関連付けられます。
 - データファンデーションの SQL オプションを取得および設定できます。
 - ビジネスレイヤのクエリオプションを取得および設定できます。

SAP BusinessObjects Web Intelligence

- 「RESTful Web サービス SDK で可能になった機能」
 - レポート要素のデータパスおよびデータセットの取得

-
- 並べ替えや順位付けを含むテーブルレポート要素の作成
 - 入力コントロールの作成および編集
 - レポート要素のカスタムプロパティの管理
 - 「UI 拡張ポイントの拡張」
 - SAP BusinessObjects Web Intelligence RESTful Web サービス SDK を呼び出すために使用できる JavaScript メソッドの範囲が拡張されました。

5 SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP4

5.1 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 SP4 へようこそ

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite は、データを有用な情報に変換し、それを最も必要とする人々に配信するための包括的なツールセットです。このスイートには、以下を行うための各種のツールが含まれます。

- データのレポート作成
- ドキュメントのスケジュールと配信
- データの分析と閲覧
- 情報の表示と視覚化
- これらすべてのタスクの管理
- 独自のソリューションのカスタマイズ

サポートされるプラットフォーム、データベース、Web アプリケーションサーバ、Web サーバ、およびこのリリースでサポートされるその他のシステムの一覧については、製品出荷マトリックス (サポートされるプラットフォーム/PAR) を参照してください。このドキュメントは、[SAP Support Portal](#) の SAP BusinessObjects のセクションにあります。

旧リリースの機能については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com/bobi>) を参照してください。

5.2 SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP の機能強化

トランスレーションマネジメントツールのサポート

Analysis, edition for OLAP で、トランスレーションマネジメントツールがサポートされるようになりました。これにより、Analysis ワークスペースに含まれるコンポーネント名やシート名などのメタデータのほか、Analysis ワークスペースファイル名およびファイルの説明を、別の言語で表示することができます。この機能の使用方法的詳細については、トランスレーションマネジメントツールユーザガイドを参照してください。

5.3 SAP BusinessObjects Web Intelligence の機能強化

レポートテーブルのデフォルト階層レベル

テーブルに表示される階層のデフォルトレベルを選択できるようになりました。これまでは、ドキュメントの最新表示、階層のルートの変更、またはドキュメントの消去と最新と表示を実行するたびに、テーブル階層が自動的にルート階層レベルまで閉じられていました。

このオプションを使用すると、ドキュメントを開くか、ドキュメントを最新表示するか、ドキュメントを消去して最新表示するか、または階層のルートメンバーを変更した場合に、設定したデフォルトレベルが表示されます。

この新しい動作を設定するには、レポートテーブルを右クリックし、コンテキストメニューから[階層ナビゲーション](#)を選択します。

動的な BEx 変数を使用した Web Intelligence ドキュメントのスケジュール

通常、プロンプトを使用して Web Intelligence ドキュメントをスケジュールする場合、スケジュールパラメータの設定時にプロンプト値を選択する必要があります。しかし、動的プロンプトがある場合は、データソースに対してそのプロンプトの動的値の入力を許可する必要があります。

BW の必須動的変数にプロンプトがある場合、BI 管理者は、BW データソースに対し、スケジュールされたドキュメントの実行時におけるそのプロンプトの値の自動入力を許可できるようになりました。BI 管理者がこのアクションを許可するプロパティを設定すると、ユーザが BI ラウンチパッドの[スケジュール](#)ダイアログボックスで動的変数のプロンプトを使用してドキュメントをスケジュールした場合に、動的変数のプロンプトに対して新しい[クリア](#)ボタンをクリックし、プロンプト値フィールドをクリアすることができます。BW データソースは、スケジュールされた各ドキュメントに対するプロンプトを提供できます。

100% 積み上げ棒チャートと縦棒チャートでのゼロ値の平坦化

チャートの書式設定ダイアログボックスの **▶ プロットエリア ▶ デザイン** チャート領域の[ゼロ値の平坦化](#) オプションを使用して、ゼロ値の棒または縦棒が値軸に対して平坦になるよう設定できるようになりました。

通常、100% 積み上げチャートでは、メジャーデータが棒または縦棒に積み上げられ、0 の値はチャートの高さまたは長さいっぱいまで表示されます。

ゼロ値を平坦化すると、値がゼロの縦棒が値軸で平坦化され、チャート上に表示されなくなります。それにより、有効なデータがある棒または縦棒のみが表示されます。

二重軸チャートの値軸のロック解除

二重軸を使用するチャートでは、それぞれの軸にそれぞれのグリッドおよびソースが割り当てられるよう、軸のロックを解除することができます。通常、軸はロックされ、同じソースと同期されています。1 つの軸の値がマイナスで、もう 1 つの軸の値にはプラスとマイナスの値が含まれている場合、チャートが平坦化されることがあります。

代わりに個別の軸を使用して、データコンテキストを改善することができます。たとえば、棒は .5 単位のプラスのデータ、折れ線は 5 単位のマイナスのポイントを表し、折れ線と比較すると棒が非常に平坦で、状況を把握しにくいチャートがあります。ソースのロックを解除すると、棒と縦棒のそれぞれにスケールを割り当てることができ、状況が把握しやすくなります。

チャートの書式設定ダイアログボックスの **値軸 2** チャート領域に、新しい **軸のロック解除** オプションがあります。

i 注記

BI 4.1 SP 4 以上に移行した XI 3.1 ドキュメントでは、この設定が自動的に有効化されます。

5.4 SDK の拡張

Web Intelligence SDK の拡張

- RESTful Web サービス SDK で可能になった機能
 - ユーザマシンへのドキュメントの保存。
 - データプロバイダのクエリプランの取得および更新。
 - グループ変数の管理。
- UI 拡張ポイントの拡張によって、以下が可能になりました。
 - Web Intelligence インタフェースのステータスバーへのカスタム機能の追加。
 - JavaScript メソッドの拡張された範囲を使用した、SAP BusinessObjects Web Intelligence RESTful Web サービス SDK の呼び出し。

5.5 データアクセス

BI プラットフォームのデータアクセスレイヤでは、以下の変更が行われました。

データソース (新規)

Simba JDBC4 ドライバで Apache Hadoop Hive と Cloudera Impala データベースの両方がサポートされます。

詳細については、製品出荷マトリックス (PAM) を参照してください。

JVM 設定 (新規)

このリリースでは "プロセッサ" 属性を設定するオプションを利用できます。

詳細については、データアクセスガイドを参照してください。

6 SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP5

6.1 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 SP5 へようこそ

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite は、データを有用な情報に変換し、それを最も必要とする人々に配信するための包括的なツールセットです。このスイートには、以下を行うための各種のツールが含まれます。

- データのレポート作成
- ドキュメントのスケジュールと配信
- データの分析と閲覧
- 情報の表示と視覚化
- これらすべてのタスクの管理
- 独自のソリューションのカスタマイズ

サポートされるプラットフォーム、データベース、Web アプリケーションサーバ、Web サーバ、およびこのリリースでサポートされるその他のシステムの一覧については、Product Availability Matrix (サポートされるプラットフォーム/PAR) を参照してください。このドキュメントは、[SAP Support Portal](#) の SAP BusinessObjects のセクションにあります。

旧リリースの機能については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com/bobi>) を参照してください。

6.2 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム

BI プラットフォームとの SAP Lumira 統合

SAP Lumira は、CMC のアプリケーションとしてリストされました。これにより、各ユーザまたはユーザグループに対して SAP Lumira のデータ取得およびコンテンツ共有機能に関連するアクセス権を管理することができます。

詳細については、*Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドを参照してください。

プラットフォーム検索の拡張

- BI ラウンチパッドで、Analysis Office および Lumira ドキュメントタイプを検索できるようになりました。
- メタデータ検索が、ヘブライ語およびアラビア語ロケールでもサポートされるようになりました。

ユーザグループおよびフォルダに基づく Web Intelligence ユーザインタフェース要素のカスタマイズ

ユーザグループおよびフォルダに基づいて、Web Intelligence ユーザインタフェース要素をカスタマイズできるようになりました。これまで、Web Intelligence ユーザインタフェース要素のカスタマイズはユーザグループのみに基づいて行われていました。

詳細については、*Business Intelligence* プラットフォーム管理者ガイドの "Web Intelligence インタフェース要素のカスタマイズ" の節を参照してください。

6.3 SAP BusinessObjects Web Intelligence

BW プロンプト手動入力の拡張

タイプ**選択オプション**の BEx 特性変数のプロンプトダイアログボックスで次の操作ができるようになりました。

- **プロンプト**ダイアログボックスに変数値を手動入力できます。以前は、プロンプト値の一覧で値を検索する必要がありました。現在は、変数値を**値の入力**テキストボックスに手動入力し、選択された値の一覧に追加できます。
- 通常、**選択オプション**変数を使用して間隔値を選択します。たとえば、A から Y までの値を取得する場合は、プロンプトダイアログボックスで開始値として A を入力し、終了値として Y を入力します。SP05 以降、BI 管理者は任意の値の選択が可能な新規オプションを適用できます。たとえば、A と R の値のみを取得する必要があるとします。値一覧から "A" を選択するか、または**値の入力**テキストボックスに "A" を手動入力し、選択された値の一覧にこの値を追加します。この操作を "R" でも繰り返します。これにより、選択されたオブジェクトの一覧に A と R の値のみが表示されます。

入力コントロールチェックボックスの OK ボタン

チェックボックス形式を使用する入力コントロールに対して **OK** ボタンを有効化できます。これにより、入力コントロール一覧で複数値を選択する際に **OK** をクリックしてレポートのデータを最新表示することができます。入力コントロールの編集または追加時に、入力コントロールの**コントロールタイプの選択**パネルでこのボタンを有効化します。

Web Intelligence ユーザガイドコレクションの簡素化

SAP BusinessObjects Web Intelligence ユーザーズガイドから Web Intelligence リッチクライアントインタフェース、HTML インタフェース、およびアプレットインタフェースに関する情報にアクセスできるようになりました。以前は、Web Intelligence リッチクライアントに関しては専用のガイドがありました。

また、BEx クエリをベースにした SAP BusinessObjects Web Intelligence クエリの作成単体の情報も現在は存在していません。同じ内容を SAP BusinessObjects Web Intelligence ユーザーズガイドで確認できるようになったためです。

この重要な変更により、たとえば Web Intelligence リッチクライアントで BEx クエリを作成する場合に 3 つではなく 1 つのガイドを参照するだけで済むようになります。

SAP BusinessObjects Web Intelligence ユーザーズガイドで提供される BEx クエリのランタイム設定情報

SAP BusinessObjects Web Intelligence ユーザーズガイドのランタイム設定の節を参照することにより、BW 直接接続の動作を変更するために使用できる設定オプションを理解できます。

たとえば、MDX 準拠情報が表示されるようにしたり、実行時に RFC 呼び出しによる BI システムから BW システムへのアクセスが必要になることがあります。

Web Intelligence における関数、式、計算の使い方ガイドで提供される新規 `format_string` 情報

Web Intelligence における関数、式、計算の使い方ガイドに、`FormatDate` 式での `format_string` パラメータの使用方法を示す例が記載されています。

日付書式は国によって変わる可能性があります。たとえば日付に関してフランスでは日/月の書式が使用され、アメリカ合衆国では月/日の書式が使用されます。アメリカ合衆国にいるユーザがヨーロッパの会社向けのレポートを準備する場合は、ヨーロッパ形式で表示されるように日付の書式設定を行います。

現在使用している式で利用できる `format_string` 構文のタイプを理解する必要があります。`FormatDate` 構文用 `Format_string` の例のトピックに複数の例が記載されています。

SAP BusinessObjects Web Intelligence ユーザーズガイドで提供されるチャートのビジュアルサンプル

SAP BusinessObjects Web Intelligence ユーザーズガイドのチャートタイプの節に各チャートタイプのサンプル画像が追加されたため、さまざまなチャートについての理解をより一層深められるようになりました。これらのサンプル画像によって、データがチャートにどのように表示されるかをイメージしやすくなります。

6.4 SAP BusinessObjects Web Intelligence および BI セマンティックレイヤ SDK

Web Intelligence および BI セマンティックレイヤ向け新規開発者ガイドの作成

新しい Web Intelligence および BI セマンティックレイヤ向け SAP BusinessObjects BI 開発者ガイドでは、SAP BusinessObjects Web Intelligence のカスタマイズに関する情報、および BI セマンティックレイヤを最大限に活用できる情報にアクセスできるようになりました。このドキュメントでは、新しくリリースされた Web Intelligence 埋め込みアプレットに関する情報や Web Intelligence UI 拡張ポイントの作成および使用方法について説明します。これにより、SAP BusinessObjects Web Intelligence UI 拡張ポイントユーザガイドはなくなりました。

Web Intelligence UI 拡張ポイント用 JavaScript API リファレンスの作成

HTML リファレンスは、UI 拡張ポイントの作成時に使用する JavaScript メソッド用に使用できるようになりました。

SAP BusinessObjects BI セマンティックレイヤ

- 「RESTful Web サービス SDK」
 - 許可されたオブジェクトの集計リストを、マスタビューが拒否されていても UNX ユニバースから取得できます。
- 「Java SDK」
 - ビジネスレイヤで、パスからオブジェクトにアクセスできます。
 - ビジネスレイヤで、集計の非互換性を作成できます。
 - アグリゲート認識で、ビジネスフィルタを使用できます。
 - 式により計算列を作成できます。
 - "接続" 設定をデータセキュリティプロファイルに追加できます。
 - ローカルデータファンデーション、ビジネスレイヤ、または接続の整合性をチェックできます。

SAP BusinessObjects Web Intelligence

- 「Web Intelligence 埋め込みアプレット」

Web Intelligence を独自のポータルに埋め込むことができるようになりました。
- 「RESTful Web サービス SDK で可能になった機能」
 - タイプチャートのレポート要素を管理する。
 - チャートをピクチャとして取得する。
 - レポート要素の未処理データを取得する。
 - レポート要素の背景画像を取得する。
 - ドキュメントに影響を与えずにデータプロバイダを最新表示する。
 - Microsoft Excel スプレッドシートを基にしたデータプロバイダを管理する。
 - 直接入力 of SQL スクリプトを基にしたデータプロバイダを管理する。
 - 詳細を含むスケジュールを取得する。
 - 新しい種類の繰り返しを含むドキュメントをスケジュールする。
 - カスタムパレットを使用する。
 - 許可されたオブジェクトの集計リストを、マスタビューが拒否されていても UNX ユニバースから取得する。
- 「UI 拡張ポイントの拡張」
 - 特定フォルダで使用可能な拡張機能を作成できるようになりました。
 - SAP BusinessObjects Web Intelligence RESTful Web サービス SDK を呼び出し時に使用可能な JavaScript メソッドの範囲が拡張されました。

6.5 SAP BusinessObjects Dashboards および Presentation Design

内半径プロパティの値を増やして円チャートをキャンパスに追加し、円チャートをドーナツ型チャートに変更することができるようになりました。また、円セグメントをチャートの残りの部分から移動したり切り離すこともできます。選択した円セグメントは、円の残りの部分から少し移動します。

6.6 SAP Crystal Reports for Enterprise

BW プロンプト手動入力の拡張

タイプ**選択オプション**の BEx 特性変数のプロンプトダイアログボックスで次の操作ができるようになりました。

- **プロンプト**ダイアログボックスに変数値を手動入力できます。以前は、プロンプト値の一覧で値を検索する必要がありました。現在は、変数値を**値の入力**テキストボックスに手動入力し、選択された値の一覧に追加できます。手動入力でのパターンマッチングは、**選択オプション**変数に対してもサポートされています。
- 以下の変数タイプがサポートされています。
 - 単一値変数
 - 複数の単一値変数
 - 間隔 (範囲) 値変数
 - 単一キー日付変数
 - 選択オプション変数
 - 式変数

i 注記

選択オプション変数に基づくプロンプトの使用時には、設定ファイルに

`sap.sl.bics.variableComplexSelectionMapping=multivalue` を入力することで、プロンプトを間隔プロンプトではなく複数プロンプトとして表示できます。

6.7 データアクセス

このリリースでは、以下の機能がサポートされます。

- Apache Hadoop Hive、Amazon EMR Hive および Cloudera Impala データベースに対する Simba ODBC ドライバサポート
- Amazon EMR Hive に対する JDBC4 サポート
- Progress10 の再導入

詳細については、Product Availability Matrix (PAM) を参照してください。

6.8 レポート変換ツール

直接入力 Web Intelligence の SQL (FHSQL) サポート


直接入力 SQL に基づく Desktop Intelligence ドキュメントの変換で、ユニバースオンザフライの生成が必要なくなります。

7 SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP6

7.1 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 SP6 へようこそ

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite は、データを有用な情報に変換し、それを最も必要とする人々に配信するための包括的なツールセットです。このスイートには、以下を行うための各種のツールが含まれます。

- データのレポート作成
- ドキュメントのスケジュールと配信
- データの分析と閲覧
- 情報の表示と視覚化
- これらすべてのタスクの管理
- 独自のソリューションのカスタマイズ

サポートされるプラットフォーム、データベース、Web アプリケーションサーバ、Web サーバ、およびこのリリースでサポートされるその他のシステムの一覧については、[Product Availability Matrix \(サポートされるプラットフォーム/PAR\)](#)  を参照してください。

旧リリースの機能については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com/bobi>) を参照してください。

7.2 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム

BI ワークスペースでの Design Studio ドキュメントのサポート

Design Studio ドキュメントのサポートが BI ワークスペースに組み込まれました。これにより、1 つのビューで Design Studio ドキュメントの整理および表示ができるようになりました。BI ワークスペースでは、複雑な Design Studio ドキュメントを管理し、組織をまたがって情報を共有することができるようになりました。

BI ラウンチパッドおよび CMC での新しい出力先としての SFTP

SFTP は Secure File Transfer Protocol (セキュアファイル転送プロトコル) を表し、ラウンチパッドおよび CMC に追加された新しい出力先です。SFTP は FTP に似ていますが、フィンガープリント認証を使用しているためより安全なデータ送信が可

能です。SFTP フィンガープリントは SFTP サーバの公開鍵で、クライアントの認証に使用されます。SFTP サーバごとに 1 つのフィンガープリントがあり、これを使用して、パスワードと送信データを暗号化します。

SMTP over SSL 機能の有効化

電子メールの (SMTP) 出力先へのオブジェクトのスケジュール時に、[SSL を有効にする] チェックボックスを使用できるようになりました。ユーザが [SSL を有効にする] チェックボックスにチェックを入れている場合、セキュリティ保護されたチャネルが有効になります。これにより、セキュリティ保護された SMTP over SSL 送信が可能になります。このためには、クライアントとサーバのシステムに同じ証明書があることが必要です。

Enterprise 認証パスワードの強度

Enterprise 認証とは、BI プラットフォームのデフォルトの認証方法で、最初にシステムをインストールしたときに自動的に有効になり、無効にできません。Enterprise 認証についてパスワードとユーザの新しい制限が導入されており、管理者は、特殊文字、数字、大文字と小文字を含むパスワードの使用をユーザに対して強制することができます。デフォルトでは、管理者が変更しない限り、大文字と小文字を含むパスワードの使用を求める設定のみが選択されています。この場合、少なくとも 1 つの大文字と 1 つの小文字がパスワードに含まれている必要があります。必要に応じて、管理者はその他のパスワード設定を強制することができます。

セントラル管理コンソール (CMC) の SSO ログイン

シングルサインオン (SSO) という用語は、さまざまなシナリオを表すために使用されます。最も基本的なレベルでは、ユーザがログオン情報を一度入力するだけで 2 つ以上のアプリケーションやシステムにアクセスできる状況のことを表します。ログオン情報の入力が一度で済むため、システムとの対話が簡素化されます。CMC の SSO を有効にできるようになりました。BI ラウンチパッドまたは CMC のセッションタイムアウト後、両方のケースで SSO が有効になっている場合は、ユーザにログインが要求されます。ページを最新表示すると、ユーザはパスワードを入力しなくても再度ログインされます。処理中は警告を無効にできません。

BI ラウンチパッドと CMC のブラウザクローズ時のセッションのクローズ

ユーザが BI ラウンチパッドとセントラル管理コンソールでブラウザを閉じると、ユーザセッションがリリースされます。

CMS データベースの Sybase バージョンの 12.0.1.4085 から 12.0.1.4127 への変更

CMS データベースの Sybase バージョンの変更により、以前のバージョンにおけるセキュリティの脆弱性が解決されます。

BICS 接続の動作をカスタマイズするためのディメンションセマンティックレイヤ (DSL) での設定ファイルの追加

ディメンションセマンティックレイヤ (DSL) ライブラリの設定オプションを実行時に設定し、ビジネスインテリジェンスプラットフォームツール (Web Intelligence、インフォメーションデザインツール、ダッシュボード、Crystal Reports for Enterprise など) 内での BICS 接続を介した BW 直接接続の動作を変更することができます。

これらの DSL-BICS 設定オプションを、すべてのオプションとエンドユーザ指定の値を含む XML ファイルに格納できるようになりました。ファイルを変更すると、このファイルを読み込むすべての DSL プロセスに新しいオプション設定が伝搬されます。

新しい設定オプションメカニズムの導入の詳細については、次の SAP ノートを参照してください。[0002060126](#)

7.3 SAP BusinessObjects Web Intelligence

[ソースの変更ウィザード] の拡張による追加オプションの提供

[[ソースの変更ウィザード](#)] で、データソースの変更中にオブジェクトをマップする方法のコントロールが向上しました。マッピングストラテジーや設定を管理したり、マップしているオブジェクトに関する情報やターゲットデータソース内のオブジェクトとの互換性を確認したりすることができます。

Excel データソースへの接続

Web Intelligence アプレットまたは Web Intelligence リッチクライアントインタフェースでは、Excel データソースに基づくクエリにおいて、以下の状況ではドキュメント内の Excel データソースへの接続を簡単に再確立することができます。

- ローカル Excel データソースを CMS にアップロードした場合。
- ドキュメントにおいて同一の CMS ソース上の別のロケーションにある Excel データソースに再接続する場合。

BI バリエーション: シングルクリックでの複数のプロンプトへの応答

[[プロンプト](#)] ダイアログボックスで、よく使用される変数値セットのグループをプロンプトバリエーションとして保存し、[[利用可能なプロンプトバリエーション](#)] のオプションにアクセスすることができます。[[プロンプト](#)] ダイアログボックスでオプションが表示されるようにするには、最初に Web Intelligence ドキュメントクエリを作成、実行、および保存してから、それを最新表示するか開く必要があります。

プロンプトバリエーションは、地域担当マネージャなどが担当地域内の支社ごとにプロンプトバリエーションを使用する場合に役立ちます。支社ごとのプロンプトバリエーションを保存したら、レポートを最新表示した後に興味のあるデータに直接アクセスしたり、表示する必要があるデータに基づいてプロンプトバリエーションを選択したりできます。支社 A のプロンプトバリエーションを選択した場合、ドキュメントには支社 A のデータのみが表示されます。

ユニバースプロンプトの動的デフォルト値のサポート

ユニバース内のプロンプトに、演算子および関数 (CurrentDate()、ToNumber(FormatDate(CurrentDate();"yyyymm"))、今年度の場合は ToNumber(FormatDate(CurrentDate();"yyyy")) など) に基づいて動的デフォルト値を定義できるようになりました。また、これらのプロンプトを実行時に Web Intelligence で使用できるようになりました。

以前は、通常現期間を分析する際に、エンドユーザは現在日付に等しいプロンプトデフォルト値を使用する必要がありました。プロンプトの動的デフォルト値は、Web Intelligence ドキュメントのスケジュールでサポートされています。

HANA の複数値入力パラメータの SL サポート

Web Intelligence では、SAP HANA Studio で有効化されている場合は、新しい複数値入力パラメータがサポートされるようになりました。

メジャーのないクエリのブロック

OLAP データベースでは、メジャーのないクエリを実行すると、デカルトの問題により OLAP サーバがクラッシュする場合があります。OLAP ユニバース設計者は、ユーザが OLAP データベースでメジャーのないクエリを実行しないように、回避策として PREVENT_QUERY_WITHOUT_MEASURE を使用することができます。

Web Intelligence での直接入力の SQL データプロバイダ

Web Intelligence ドキュメントでの直接入力の SQL (FHSQL) に基づいたデータプロバイダを使用し、Desk Intelligence ドキュメントを、レポート変換ツールにより、FHSQL データプロバイダを使用する Web Intelligence ドキュメントに変換することができます。

この新しい機能により、上級ユーザは、リレーショナルユニバースを使用することなく、RDBMS データベース上で SQL スクリプトから直接、Web Intelligence でドキュメントを作成できます。この種類のデータプロバイダは、標準のセマンティックレイヤによってサポートされていない高度なデータベース関数を使用する複合 SQL クエリがある場合に役立ちます。

レポートテーブルでの複数列選択

テーブル内のセルの連続するグループを作成する場合に、**[Shift]** + クリックと **[Ctrl]** + クリックのキーボードショートカットを使用することができます。この機能強化により、ユーザに BusinessObjects XI 3.1 で使用可能な関数が提供されます。

値の一覧での NULL 値の選択

LOV の `[NULL_VALUE]` オプションにより、LOV に存在する VOID (または空) の値を選択することが可能になります。このオプションは常にレポートフィルタ LOV に表示され、NULL 値の選択を許可するよう入力コントロールが設定されている場合はコンボボックス、ラジオボタン、リストボックス、またはチェックボックス入力コントロールに表示される場合があります。

たとえば、ユーザが未払いの顧客を照会する場合は、オブジェクト "請求日" の `[NULL_VALUE]` によって、請求日のない顧客のみが一覧に表示されます。


式エディタでの演算子および関数に関するヘルプへのアクセス

式エディタの Web Intelligence HTML インタフェースでは、演算子や関数の構文、入力パラメータ、使用上の注意、例などの情報にアクセスできるようになりました。

Web Intelligence リッチクライアント通知アイコンの表示のコントロール

Web Intelligence リッチクライアント通知はシステムトレイ内のアイコンで表され、無効化することができます。この通知プロセスは、Web Intelligence リッチクライアントを開いた後にバックグラウンドで実行されている Web Intelligence 処理を表します。ドキュメントをロードする時間を短くするには、Web Intelligence リッチクライアントのバックグラウンド処理を有効化します。

Web Intelligence の SAP Analytics 拡張マーケットプレイスへの迅速なアクセス

Web Intelligence でのユーザ権限に応じて、Web Intelligence インタフェースの下部にあるステータスバーの以下のアイコンを使用して、SAP Analytics 拡張マーケットプレイスに迅速にアクセスできるようになりました。 

SAP Analytics 拡張マーケットプレイスでは、SAP パートナが Web Intelligence、Design Studio、Lumira などの SAP 製品向けに作成した SAP Analytics 製品用の拡張を参照することができます。

Web Intelligence のチャートでのダッシュのサポート

Web Intelligence のチャートでは、ダッシュ、ドット、ダッシュとドット、プレーンといったさまざまな線のスタイルから選択できるようになりました。

Web Intelligence DHTML クライアントの印刷設定

Web Intelligence DHTML クライアントから印刷する際に、ページの方向、ページ数、余白などの設定を選択できるようになりました。

クエリのキャンセル機能の改良

一部のデータソースではクエリのキャンセルが許可されていません。そのような場合には、Web Intelligence はクエリを中止し、ドキュメントのコントロールをユーザに戻しますが、中止された最新表示操作はバックグラウンドで実行されたままになります。

ドキュメントごとの保留中の中止された最新表示操作の数は、データベースパフォーマンスの低下を回避するために、デフォルトで 10 個に制限されています。

この制限に達した後に最新表示操作をキャンセルしようとすると、保留中の他の最新表示操作の少なくとも 1 つが完了したとき、または現在のクエリの最新表示操作が完了したときに、Web Intelligence によってドキュメントのコントロールがユーザに戻されます。

Web Intelligence でのドキュメント入力コントロール

ドキュメント全体の要素に入力コントロールを適用できるようになりました。以前は、現在のレポート内の要素にのみ入力コントロールを適用することができました。すべてのレポートに入力コントロールを適用することによって、テーブル、チャート、セクションなどの要素に表示されるデータのグローバルコントロールが可能になります。

Web Intelligence リッチクライアントおよびアプレットインタフェースの【読み取り】モード機能の改良

Web Intelligence リッチクライアントまたはアプレットインタフェースの【読み取り】モードで、【データのエクスポート】機能を使用できるようになりました。つまり、編集権限がなくても【読み取り】モードでデータを CSV ファイルにエクスポートできるようになりました。

これまでは、【データのエクスポート】機能は、【デザイン】モードでのみ使用可能であり、データのエクスポートには編集権限が必要でした。

RelativeDate() 関数の改良

追加対象の期間を指定するための追加の `period` パラメータにより、計算時に `RelativeDate()` 関数で Year、Semester、Quarter、Month、Week、Day、Hour などの追加の日付オプションを使用できるようになりました。

以前は、日付で計算し、週、月、年などの各単位を日に変換してから RelativeDate() 関数を使用することのみが可能でした。

7.4 SAP BusinessObjects Web Intelligence および BI セマンティックレイヤ SDK

Web Intelligence および BI セマンティックレイヤ向け SAP BusinessObjects BI 開発者ガイドの更新

このガイドでは、ユニバースデザインツール COM SDK および Driver Development Kit を BI プラットフォームでの分析アプリケーションの開発に利用可能なツールとして紹介しています。

SAP BusinessObjects BI セマンティックレイヤ

- 「RESTful Web サービス SDK」
 - UNV ユニバースがサポートされるようになりました。
 - クエリで順位フィルタを登録することができます。
 - 定数比較フィルタで BOTH および EXCEPT 演算子を使用することができます。
 - UNX ユニバースのオブジェクトパラメータの一覧を取得することができます。
 - その他のコンテキスト詳細とともに非互換コンテキスト値を取得することができます。
- 「Java SDK」
 - データファンデーションビューを登録することができます。
 - ビューでテーブルの位置、幅、および表示状態を定義することができます。
 - ビジネスレイヤのカスタムナビゲーションパスを登録、編集、および削除することができます。

SAP BusinessObjects Web Intelligence

- 「Web Intelligence 埋め込みアプレット」

埋め込みアプレットが SAP ブランド標準に従って変更されました。
- 「カスタマイズ」

CMC でのカスタマイズによって、SAP BusinessObjects Web Intelligence のステータスバーの [SAP マーケットプレイス] ボタンを非表示にすることができます。
- 「RESTful Web サービス SDK で可能になった機能」
 - ドキュメントの入力コントロールの管理
 - カスタムストラテジーを使用したデータソースの変更
 - CMS リポジトリでのフォルダ、ユニバース、および接続の検索

- 直接入力の SQL プロバイダでの接続と SQL スクリプトの更新
- CMS リポジトリからの Microsoft Excel スプレッドシートの削除
- レポートの最終ページのエクスポート
- テーブルで指定したセルの行または列の挿入または削除
- テーブルのセルの結合または分割
- タイプがテーブルまたはビジュアライゼーションのレポート要素への変換関数の適用
- ビジュアライゼーションの順位の管理
- セクションまたはビジュアライゼーションの軸の並べ替えの更新または削除
- その他のコンテキスト詳細と非互換コンテキスト値の取得
- 「UI 拡張ポイントの拡張」
 - SAP BusinessObjects Web Intelligence RESTful Web サービス SDK の呼び出し時に使用可能な JavaScript メソッドの範囲に `exportReportElementAsImage` 関数が追加されました。

7.5 SAP BusinessObjects Live Office

インフォメーションデザインツールを使用して作成された **.unx ユニバースの Live Office サポート**

- リレーショナル接続に基づく .unx ユニバースを使用する Web Intelligence ドキュメントがサポートされます。
 - **i 注記**
BEx クエリへの直接アクセスに基づく Web Intelligence ドキュメント、または OLAP 接続に基づく .unx ユニバースはサポートされません。「」
- クエリパネルでは、リレーショナル接続に基づく .unx ユニバースがサポートされます。
 - **i 注記**
クエリパネルでは、OLAP 接続に基づく .unx ユニバースおよび BEx クエリへの直接アクセスはサポート「されません」。

マルチコンテキストの Live Office サポート

マルチコンテキストを持つ Web Intelligence ドキュメントおよびユニバースがサポートされるようになりました。

7.6 SAP BusinessObjects Mobile

従来、モバイル BI サーバでは、クライアント設定を使用してアプリケーション内の BI ドキュメントの動作および機能を制御することができます。ただし、クライアント設定を使用して「特定の BI ドキュメント」の表示および機能要素を制御することはできません。

BI ラウンチパッドで BI ドキュメントのモバイルプロパティを使用して、要件に基づき、特定の BI ドキュメントの「動的モバイルプロパティ」を定義することができるようになりました。この機能の詳細については、<http://help.sap.com/bomobiserver41> で公開されている 4.1 SP6 用の *Mobile* サーバのデプロイメントおよび設定ガイドを参照してください。

7.7 SAP Crystal Reports for Enterprise

データソースとしてのフラットファイル

ユーザは、Crystal レポートのデザイン時に、データソースとして TXT および CSV「フラットファイル」を使用することができるようになりました。フラットファイルは以下の場所にあります。

- ローカルシステムドライブ
- 一般的な HTTP の場所

7.8 SAP Crystal Reports (Designer)

レポートのすべてのタイプのプロンプトパラメータは、レポートへのドラッグ時に値の説明を表示

以前は、Crystal レポートのデザイン時に、プロンプトパラメータがレポートにドラッグされて [値の説明を表示] に設定されると、単一の離散値を持つパラメータによってのみ、予期される説明が表示されました。複数の離散値を持つパラメータでは、最初の値の説明のみが表示されました。値の範囲を持つパラメータでは、説明に空の文字列が表示されました。

この不具合は修正されています。複数の離散値または値の範囲を持つパラメータも、レポートに予想される説明が表示されます。

たとえば、1、2、3、4... などの値 (ID) および [米国]、[中国]、[フランス]、[インド] ... などの対応する値の説明を持つ [国] パラメータをレポートにドロップし、このパラメータを [説明を表示] に設定したとします。許可されている入力の種類および選択されている実際の値に基づいて、レポートでの表示は以下のいずれかとなります。

- 単一の範囲: (米国, フランス)
- 複数の離散値: 米国, 中国, インド
- 複合: 米国, フランス, [インド, 終了の指定がありません])

7.9 データアクセス

このリリースでは、以下の新しいデータベースがサポートされます。

- Amazon RedShift
- Salesforce.com
- Progress OpenEdge 11.3

詳細については、Product Availability Matrix (PAM) を参照してください (<http://service.sap.com/pam>)。

7.10 SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP

Microsoft Analysis Services (SSAS) の基になるリレーショナルデータへのドリルスルーのサポート

OLAP データを分析する際、特定のセル値に影響する、基になるリレーショナルトランザクションからのデータを参照しようとする場合があります。ドリルスルーによって、これらのトランザクションレコードに関する詳細を知ることができます。

選択オプション変数プロンプトでのデフォルトオペランドの定義

[**プロンプト**] ダイアログボックスでデフォルトのオペランド値を設定できるようになりました。このオペランド値を使用して、返されるデータをフィルタし、分析に表示します。

選択オプション変数での複数の値の手動入力へのサポート

[**プロンプト**] ダイアログボックスでセミコロン区切り文字 (;) を使用して、[**等しい**] および [**等しくない**] 基準で複数の値を選択できるようになりました。

[データソースを開く] ウィンドウのデフォルトタブ

プロパティファイルを使用して、データソースウィンドウのデフォルトタブを [検索] または [フォルダ] に変更できるようになりました。このプロパティに設定されている値に基づいて、デフォルトタブが表示されます。

7.11 Dashboards および Presentation Design

モバイルにおけるパフォーマンスの強化

BI 4.1 SP06 Designer を使用して再公開された Dashboards では、モバイルにおけるパフォーマンス (特にドキュメントの初期ロード時間) が強化されています。『Dashboards および Presentation Design ユーザガイド』を参照して、この特性を活用するために適切なレジストリ設定が有効化されていることを確認します。

7.12 インフォメーションデザインツール

インフォメーションデザインツールのこのリリースでは、以下の新機能を使用できます。

プロンプトのユーザ入力としての動的デフォルト値

パラメータの式を定義して、プロンプトのユーザ入力としての動的デフォルト値を設定できるようになりました。データファンデーションエディタで [パラメータおよび値の一覧](#) タブの [デフォルト値の設定](#) セクションから、式を定義します。

プロンプトの動的デフォルト値は、Number、String、Date、または Time 関数に基づくことができます。たとえば、現在の年または期間の場合は、`CurrentDate()`、`DatesBetween(date1, date2)`、`ToNumber (FormatDate (CurrentDate ();"yyyymm"))`、`ToNumber (FormatDate (CurrentDate ();"yyyy"))` となります。これは、現在の期間のレポートまたはデータビューを分析するユーザに有用です。

複数のエントリが有効な SAP HANA 入力パラメータのサポート

データファンデーションの SAP HANA 入力パラメータは、SAP HANA studio で入力パラメータの [\[複数エントリ\]](#) オプションが選択されている場合に、複数の値を受け入れられるようになりました。

OLAP データソースクエリに 1 つ以上のメジャーが含まれるようにすることが可能


新しい SQL パラメータ `PREVENT_QUERY_WITHOUT_MEASURE` が、クエリスクリプトパラメーター一覧に追加されました。YES に設定されていると、少なくとも 1 つのメジャーを含まないクエリの OLAP データソースでの実行は阻止されます。

8 SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP7

8.1 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 SP7 へようこそ

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite は、データを有用な情報に変換し、それを最も必要とする人々に配信するための包括的なツールセットです。このスイートには、以下を行うための各種のツールが含まれます。

- データのレポート作成
- ドキュメントのスケジュールと配信
- データの分析と閲覧
- 情報の表示と視覚化
- これらすべてのタスクの管理
- 独自のソリューションのカスタマイズ

サポートされるプラットフォーム、データベース、Web アプリケーションサーバ、Web サーバ、およびこのリリースでサポートされるその他のシステムの一覧については、[Product Availability Matrix \(サポートされるプラットフォーム/PAR\)](#)  を参照してください。

旧リリースの機能については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com/bobi>) を参照してください。

8.2 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム

SAP AutoConfigure ツールが関連製品にパッケージ化されている

SAP AutoConfigure ツールは、SAP BusinessObjects Business Intelligence 4.1 SP7 の関連製品フォルダにパッケージ化されています。

BI 4.1 SP7 インストーラのインストールウィザード画面の改良点

BI 4.1 SP7 インストーラのインストールウィザード画面に製品出荷マトリックス (PAM) のハイパーリンクが示されます。

インストールウィザード画面が改良され、以下のメッセージが表示されるようになりました。サポートされるプラットフォームの詳細については、次を参照してください。 <https://support.sap.com/pam> 

役立つリソースおよびマニュアルのドキュメントが関連製品にパッケージ化されている

役立つリソースおよびマニュアルのドキュメントは SAP BusinessObjects Business Intelligence 4.1 SP7 の関連製品フォルダにパッケージ化されています。

ドキュメントには、以下のリンクおよび情報が含まれています。

1. 製品マニュアル
2. 製品出荷マトリックス
3. BI e ラーニングチュートリアル
4. SAP BusinessObjects パターンブック
5. Adaptive Processing Server ベストプラクティス
6. Business Intelligence サイズ設定ガイド
7. Business Intelligence アップグレードリソース


CMC でのスコープバッチサイズ制限

デフォルトでは、パラメータ "SI_SCOPE_BATCH_SIZE" を使用して、すべてのパブリケーションに対してスコープバッチサイズを設定することができます。複数パスバーストモードが有効になっている場合、スコープバッチサイズを調整してパフォーマンスを向上させることができます。デフォルトでは、制限値は 50 です。ただし、ユーザは 0 ~ 50 のカスタム整数値を入力することができます。

CMC でのフォルダレベルでのレポートインスタンスの制限

制限を設定することで、BI プラットフォームのレポートインスタンスを自動的に削除できます。処理する受信者がいない場合、[\[処理する受信者がいないときはパブリケーションインスタンスを削除します\]](#) チェックボックスをオンにして、パブリケーションインスタンスを削除できるようになりました。

アップグレードマネジメントツール

「開始前の準備」セクションで、「アップグレードの実行」セクションに注を含めました。詳細については、SAP ノート [2203527](#)  を参照してください。

8.3 SAP BusinessObjects Web Intelligence

最終版のモードが自動的に保存される

以前は、ドキュメントをデザインモードで保存して閉じる場合、[データあり] デザインモードがデフォルトの表示モードでした。このことは、ドキュメントを閉じる前に使用していたモードが [構造のみ] であった場合は、ドキュメントを開くたびに [構造のみ] 表示モードに戻す必要があることを意味していました。

Web Intelligence 4.1 SP7 では、最後に使用したデザインモードが保存され、ドキュメントを開くときにデザインモードを切り替える必要がなくなりました。

8.4 SAP BusinessObjects Mobile

Kerberos はネットワーク経由でパスワードを送信しない認証メカニズムです。サーバは、チケットを付与するサーバから発行された信頼できるチケットに依存します。このチケットは、クライアントからサーバに送信される要求に含まれています。


Kerberos シングルサインオン (SSO) がサポートされるようになりました。

9 SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 SP8

9.1 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 SP8 へようこそ

SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite は、データを有用な情報に変換し、それを最も必要とする人々に配信するための包括的なツールセットです。このスイートには、以下を行うための各種のツールが含まれます。

- データのレポート作成
- ドキュメントのスケジュールと配信
- データの分析と閲覧
- 情報の表示と視覚化
- これらすべてのタスクの管理
- 独自のソリューションのカスタマイズ

サポートされるプラットフォーム、データベース、Web アプリケーションサーバ、Web サーバ、およびこのリリースでサポートされるその他のシステムの一覧については、[Product Availability Matrix \(サポートされるプラットフォーム/PAR\)](#)  を参照してください。

旧リリースの機能については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com/bobi>) を参照してください。

9.2 SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム

Sybase SQL Anywhere 16 バンドルデータベースがバージョン 16 に更新される

既存のシステムを SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 サポートパッケージ 8 に更新すると、CMS データベースおよび監査データストアにバンドルされている Sybase SQL Anywhere はバージョン 16 に更新されます。

アップデートインストールプログラムを使用して、バンドルされた Microsoft SQL Server Express データベースサーバを使用する 4.0 インストールを 4.1 サポートパッケージ 8 に更新する場合、追加のアクションを行わずに、既存のバンドルされたデータベースサーバを継続して使用することができます。

または、既存のデータベースを SAP SQL Anywhere に移行するには、「Sybase SQL Anywhere への移行」に記載されている手順に従います。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence Suite 4.1 サポートパッケージアップデートガイド』を参照してください。

BI プラットフォームのベースバージョンの修正による新しい言語の追加

Business Intelligence プラットフォームをベースバージョン (4.1 SPX) から上位バージョン (4.1 SP8) に更新する場合、上位バージョンのアップデートに新しい言語が追加され、ベースバージョンに新しい言語は表示されません。新しい言語を追加する場合は、ベースバージョンを修正してください。

BI プラットフォームの段階的インストール

BI プラットフォームのインストールは 2 段階 (キャッシュとキャッシュ後のインストール) で行うことができます。

キャッシュ段階ではシステムダウンタイムが発生しないため、システムで作業を続けることができます。これ以降、システムダウンタイムは全体的に短縮されます。

段階的インストールは Windows オペレーティングシステム限定です。

新しいリポジトリ診断ツールのパラメータ

リポジトリ診断ツールに 2 つの新しいパラメータが導入されました。`scankind` では、目的の InfoObject の種類で不整合をスキャンできます。`scandays` では、特定の期間 (日数) の不整合をスキャンできます。

9.3 SAP BusinessObjects Web Intelligence および BI セマンティックレイヤ SDK

SAP BusinessObjects Web Intelligence

- 「カスタマイズ」
CMC でのカスタマイズによって、以下のユーザインタフェース要素のデータソース項目を非表示にすることができます。
 - [\[ドキュメントの作成\]](#) ダイアログボックス (または Web Intelligence リッチクライアントの [\[新しいドキュメント\]](#) ダイアログボックス)
 - デザインモードの [\[クエリパネル\]](#) および [\[新しいデータプロバイダ\]](#) ダイアログボックス
- 「UI 拡張ポイント」
XMLHttpRequest 仕様では、同期モードでのサーバへの要求が廃止されました。実行時の例外を回避するため、拡張を開発する際は非同期モードを使用することをお勧めします。

重要免責事項および法的情報

コードサンプル

この文書に含まれるソフトウェアコード及び / 又はコードライン / 文字列 (「コード」) はすべてサンプルとしてのみ提供されるものであり、本稼動システム環境で使用することが目的ではありません。「コード」は、特定のコードの構文及び表現規則を分かりやすく説明及び視覚化することのみを目的としています。SAP は、この文書に記載される「コード」の正確性及び完全性の保証を行いません。更に、SAP は、「コード」の使用により発生したエラー又は損害が SAP の故意又は重大な過失が原因で発生させたものでない限り、そのエラー又は損害に対して一切責任を負いません。

アクセシビリティ

この SAP 文書に含まれる情報は、公開日現在のアクセシビリティ基準に関する SAP の最新の見解を表明するものであり、ソフトウェア製品のアクセシビリティ機能の確実な提供方法に関する拘束力のあるガイドラインとして意図されるものではありません。SAP は、この文書に関する一切の責任を明確に放棄するものです。ただし、この免責事項は、SAP の意図的な違法行為または重大な過失による場合は、適用されません。さらに、この文書により SAP の直接的または間接的な契約上の義務が発生することは一切ありません。

ジェンダーニュートラルな表現

SAP 文書では、可能な限りジェンダーニュートラルな表現を使用しています。文脈により、文書の読者は「あなた」と直接的な呼ばれ方をされたり、ジェンダーニュートラルな名詞 (例: 「販売員」又は「勤務日数」) で表現されます。ただし、男女両方を指すとき、三人称単数形の使用が避けられない又はジェンダーニュートラルな名詞が存在しない場合、SAP はその名詞又は代名詞の男性形を使用する権利を有します。これは、文書を分かりやすくするためです。

インターネットハイパーリンク

SAP 文書にはインターネットへのハイパーリンクが含まれる場合があります。これらのハイパーリンクは、関連情報を見いだすヒントを提供することが目的です。SAP は、この関連情報の可用性や正確性又はこの情報が特定の目的に役立つことの保証は行いません。SAP は、関連情報の使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。すべてのリンクは、透明性を目的に分類されています (<http://help.sap.com/disclaimer> を参照)。





**go.sap.com/registration/
contact.html**

© 2016 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE（又は SAP の関連会社）の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。